

徳島県立博物館年報

第5号 (平成7年度)

目 次

I 展覧事業

1. 常設展 …………… 3
2. 企画展 …………… 4
3. その他の展示会 …………… 8
4. 展示関係出版物 …………… 9

II 調査研究事業

1. 分野別（個別）調査研究 …………… 10
2. 課題調査 …………… 11
3. 文部省科学研究費補助金による研究 …… 12
4. 他機関との共同研究 …………… 13
5. 研究成果の公表 …………… 13
6. 研究会・学会等の開催 …………… 15

III 資料収集保存事業

1. 購入資料 …………… 16
2. 寄贈資料 …………… 16
3. 寄託資料 …………… 17
4. 資料の貸し出し …………… 18
5. 特筆すべき資料の受入と整理 …………… 18
6. 館蔵資料数 …………… 18
7. 資料収集委員会 …………… 18
8. 文献資料の収集 …………… 19
9. 資料データベースシステム …………… 19
10. 資料の燻蒸 …………… 21

IV 普及教育事業

1. 普及行事 …………… 22
2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等 …… 23
3. 博物館実習生の受け入れ …………… 24
4. 博物館の広報活動 …………… 25
5. 普及教育関係出版物 …………… 25
6. 博物館友の会 …………… 26
7. 学校教育との連携 …………… 26

V 管理運営

1. 組織・職員 …………… 28
2. 予算 …………… 29
3. 博物館協議会 …………… 29
4. 四国地区博物館協議会及び日本博物館
協会四国支部 …………… 29
5. 徳島県博物館協議会 …………… 30
6. 開館5周年記念事業 …………… 30
7. 各種委員・非常勤講師等の受諾 …………… 30
8. 視察等博物館関係来訪者 …………… 31
9. 観覧者 …………… 31

I 展覧事業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行うが、基本的な展示の構成は当分の間変わらない。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がり資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

総合展示：「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

部門展示：総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的・分類的な展示を行っている。

(人文) 焼き物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

(自然) いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

ラプラタ記念ホールの展示：アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の哺乳動物化石を展示している。

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマをきめて随時展示替えをしている。平成7年度は、以下の展示を行った。

●庸八焼

「焼き物のうつりかわり」（通年）のコーナーを撤去し、館蔵の庸八焼を展示した。これは焼物収集家の豊田進氏の旧蔵品である。

●阿波の板碑 — 石川コレクションの拓本を中心に —

板碑の研究者である石川重平氏が所蔵していた阿波板碑の拓本200点が当館に寄贈されたので、その一部を展示した。

●農村歌舞伎資料

農村歌舞伎は、明治から大正を中心に全国で上演されていた。明治20年頃から昭和10年代まで、県下を中心に富山・岐阜まで巡回した武蔵野一座が使用していた芝居衣裳・道具類の展示を行った。

(3) 常設展の手直し

●ミンククジラ骨格標本の組立・展示

平成6年に日本鯨類研究所から寄贈を受けた南極海産ミンククジラ（雌、体長8.73m、体重7.65t）の全身骨格標本を組み立て、展示ロビーの天井から吊り下げた。床置きタイプの解説板も設置した。



ロビーに展示されたミンククジラの全身骨格標本

●総合展示「国府と寺院」コーナー壁面の改装

古代阿波に関する歴史資料の増加による展示スペース不足に対処するため、次のような部分改装を行った。「国府と寺院」コーナー壁面を改装し、東大寺領新島庄絵図（複製）を展示するためのアクリルケースを製作し取り付けた。これに伴い、従来、同絵図の展示に使用していたガラスケースには、その他の古代史関係資料を随時入れ替えて展示することができるようになった。

2. 企画展

平成7年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「よみがえる古代の輝き」

文化財の調査や保存に科学的な手法が取り入れられるようになって、すでに75年ほどが過ぎた。この間、多くの文化財が救われ、また、様々なことが明らかになってきた。本企画展では、修復されて古代の輝きを取り戻した遺物やそれらの科学的調査の成果を展示し、あわせて明らかとなった古代の技術にも目を向けて、これまでほとんど知られていなかった保存科学の世界を紹介した。

●期間 平成7年4月21日(金)～5月21日(日)

●会場 博物館企画展示室

●展示内容

①保存科学のはじまり—法隆寺金堂壁画の保存—

②よみがえる文化財—文化財の保存処理—

平成7年度第1回企画展
よみがえる古代の輝き

4月21日(金)～5月21日(日)

午前9時30分～午後5時 (4月28日、5月10・17日は午後7時まで)
月曜日：4月29日は休館 (5月3・4・5日の祝日は開館)
観覧料 一般400円、高校・大学生200円、小・中学生100円
(2歳以上の幼児は半額)

記念講演会
「文化財保存のハイテク技術」
沢田 正昭 氏 (奈良国立文化財研究所法隆寺研究所研究員)
日時：平成7年4月30日(日) 午後1時30分～3時
会場：徳島県立21世紀館 イベントホール
入場無料 (ご予約も要りません)

文化の京総合公園 徳島県立博物館

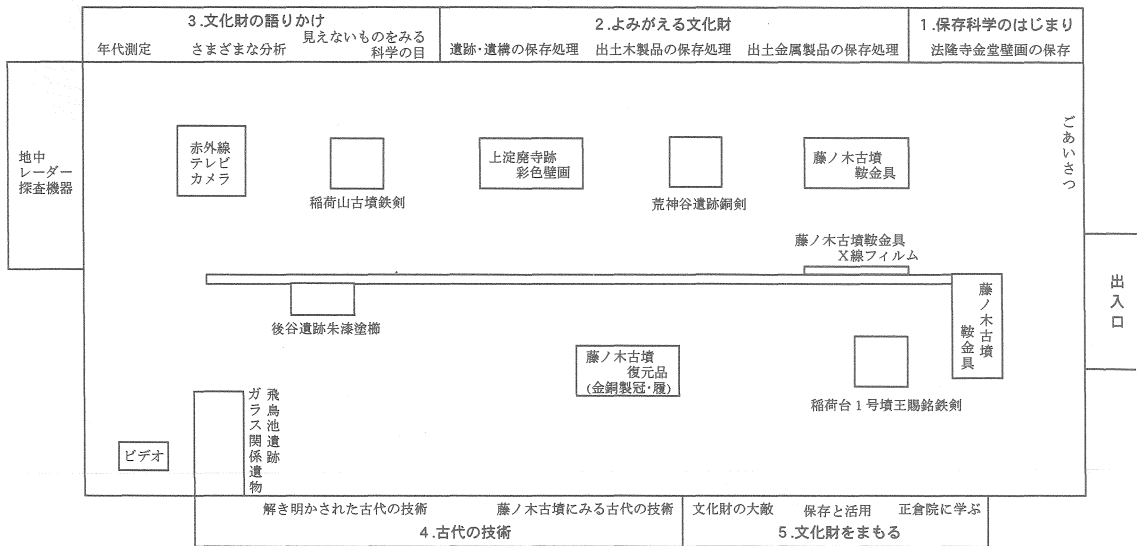
・出土金属製品の保存処理

・出土木製品の保存処理

・遺跡・遺構の保存処理

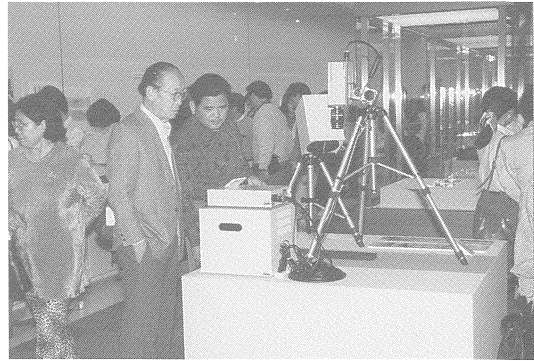
③文化財の語りかけ—科学的調査とその成果—

・見えないものをみる科学の目





「よみがえる古代の輝き」展の会場



「よみがえる古代の輝き」展の会場

- ・さまざまな分析
- ・年代測定
- ・探査

④古代の技術

- ・解き明かされた古代の技術
- ・藤ノ木古墳にみる古代の技術

⑤文化財をまもる

- ・文化財の大敵
- ・保存と活用
- ・正倉院に学ぶ

●主な展示資料

保存科学のはじまり

法隆寺金堂壁画・金堂焼損壁画（写真）

よみがえる文化財

藤ノ木古墳出土鞍金具（保存処理前・後、複製）、重要文化財 荒神谷遺跡出土銅剣、保存処理前の木製品、保存処理後の木製品、上淀廃寺跡出土彩色壁画

文化財の語りかけ

稲荷山古墳出土辛亥年銘鉄剣（複製）、江田船山古墳出土銀象嵌銘鉄剣（複製）、平城京出土袍衣壺、宮町遺跡出土柱根、赤外線テレビカメラ、地中レーダー探査機器

古代の技術

飛鳥池遺跡出土ガラス埴塼、復元青銅鏡、復元銅鐸、後谷遺跡出土朱漆塗櫛（複製）、藤ノ木古墳出土復元品（金銅製冠、金銅製履、掛布ほか）

文化財をまもる

稲荷台1号墳出土王賜銘鉄剣（展示用保存ケースとも）、害虫に食害された狛犬

映像資料

「藤ノ木古墳馬具修復記録」（7分）

奈良国立文化財研究所遺物処理研究室提供

「銅鐸の造り方」（4分）

野洲町立歴史民俗資料館提供

●観覧料 一般400円／高校・大学生200円／小・中学生100円

●期間中の観覧者数 4,984人

●記念講演会 4月30日（日）

講師：沢田正昭氏（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部長）

演題：文化財保存のハイテク技術

入場者：200人

(2) 第2回企画展「貝の世界」

貝類は動物では昆虫について種数の多いグループである。本企画展では世界各地の貝類標本をなるべくたくさん展示し、貝を通じて生物の多様性を実感してもらうことを第一の目的とした。タカラガイ類、イモガイ類、オキナエビスガイ類および大型の種に重点をおいて展示した。また、生態ジオラマ、貝の断面、貝化石、魔除けの貝等のトピックスを紹介し、貝の見方も多様であることを示した。あわせて、当館収蔵の阿部陸産貝類コレクション、金子海産貝類コレクションも紹介した。

●期間 平成6年7月22日（土）～9月3日（日）

●会場 博物館企画展示室

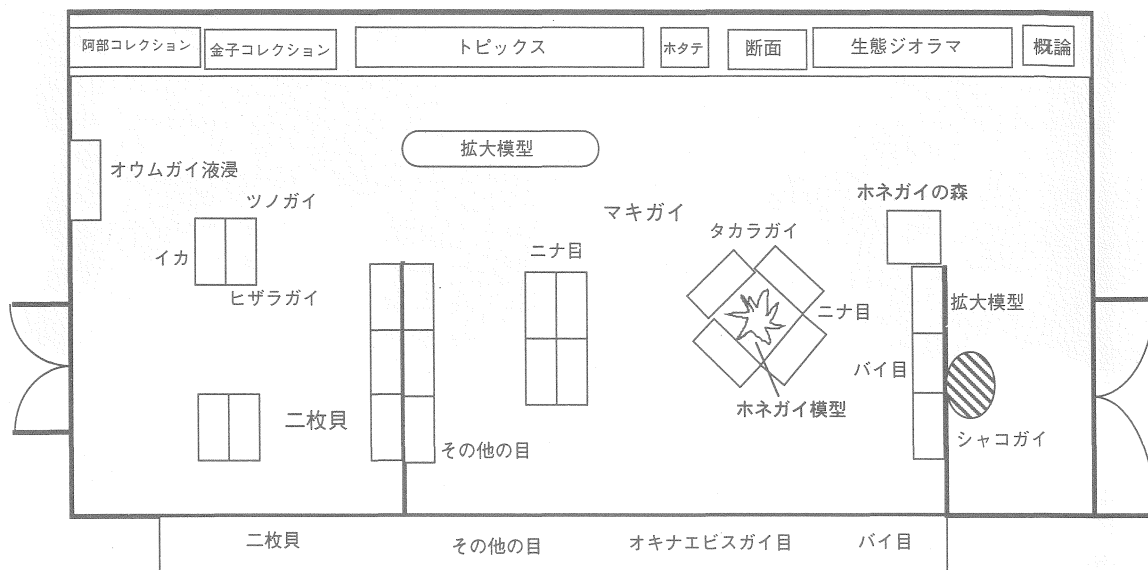
●主な展示内容

①分類展示

マキガイ綱、ニマイガイ綱、イカ綱、ヒザラガイ綱、ツノガイ綱の5つの綱

②貝の生態ジオラマ

磯、干潟、海底の砂の中、落ち葉の中、朽木の各環境についての生態ジオラマ



③トピックス

貝の断面、大きな貝・小さな貝、貝のもよう、左巻き右巻き、まよけの貝、蛤の置物（美術工芸品）

④コレクション

阿部コレクション（陸産貝類）



「貝の世界」展の会場

午前9時30分～午後5時（水曜日は午後7時まで、月曜日休館）
大人200円、高・大学生100円、小・中学生50円、20名以上の団体は2割引

- 金子コレクション（海産貝類）
- 資料借用先
青木幾男（クロアワビ、トコブシ）
鳥羽水族館（オオシャコガイ）
- 観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
- 期間中の観覧者数 12,943人

(3) 第3回企画展「戦争から豊かな未来へ」

平成7年は、日本の敗戦から数えてちょうど50年目にあたる節目の年である。

日本は、昭和6年（1931年）の満州事変から日中戦争、そして太平洋戦争への道を歩んでいった。足かけ15年間にわたる戦争によって、中国、東南アジアや太平洋の島々では、数多くの日本兵が戦死し、国内では

アメリカ軍の空襲や原爆投下等によって、多くの尊い生命が失われた。いっぽう、日本はこの戦争で戦場となった中国やアジアの国々をはじめ、日本の植民地となった朝鮮半島や台湾の人々などに苦しみをあたえ、大きな犠牲を払わせた。

戦後50年を経た現在、わが国では戦争を知らない世代が約70%を占めると言われ、戦争体験の風化が確実に進んでいる。そうした実態をふまえ、再び戦争の過ちを繰り返すことなく恒久平和を求めるために、本企画展では15年戦争の加害と被害の実態について紹介した。

なお、この企画展は、文化の森開園5周年を記念する文化の森5館の共催事業「戦後50年をみつめて」の一環として開催された。

●期間 平成7年10月17日(火)～11月19日(日)

●会場 博物館企画展示室

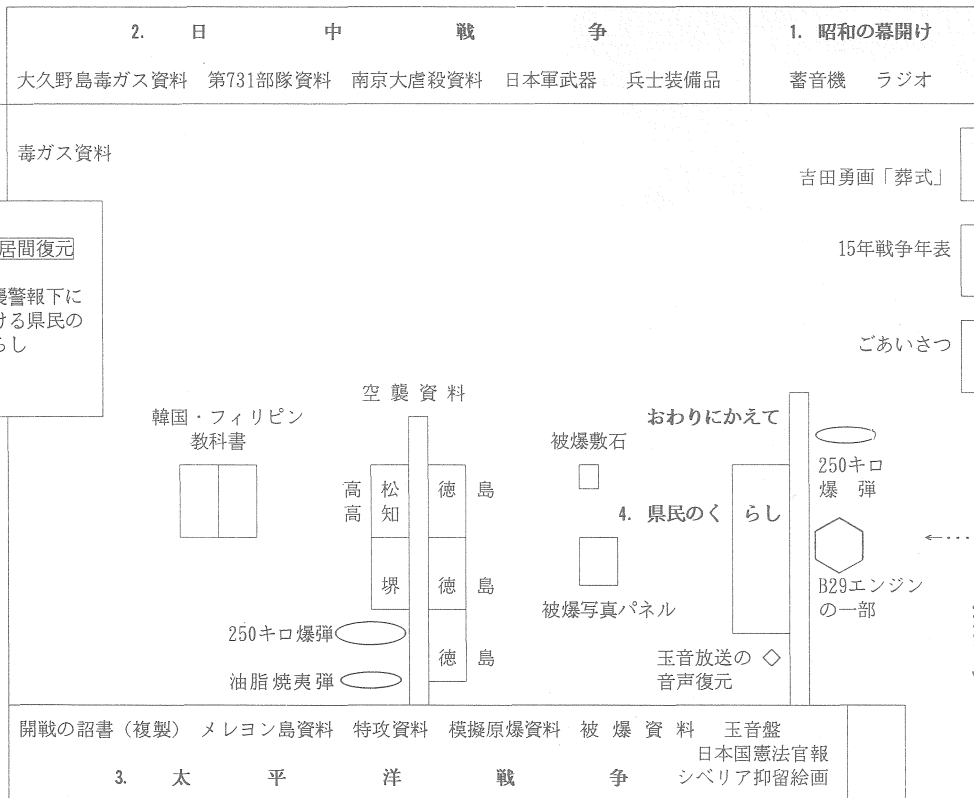
●展示内容

①昭和の幕開け

②日中戦争

・「皇軍」と兵士

・中国への侵略



③太平洋戦争

- ・開戦と戦争体制
- ・沖縄戦と特攻
- ・日本の空襲
- ・徳島空襲
- ・原爆投下
- ・敗戦

④県民のくらし

⑤おわりにかえて

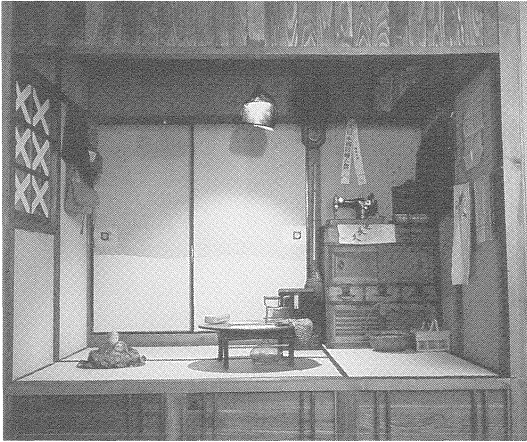
●主な展示資料

- | | |
|------------------|------------------------|
| 戦陣訓 | 三木ガーデン歴史資料館蔵 |
| 日本陸軍九七式重機関銃 | 陸上自衛隊武器学校蔵 |
| 第七三一部隊関係資料 | 平和のための京都の戦争展
実行委員会蔵 |
| 大久野島毒ガス資料 | 竹原市立大久野島毒ガス資
料館蔵 |
| 御署名原本「開戦の詔書」(複製) | 国立公文書館蔵 |
| 250キロ爆弾 | 桜井茂辰氏蔵 |
| B29エンジンの一部 | 青梅市郷土博物館蔵 |

- | | |
|------------------------|--------------|
| 堺大空襲資料 | 堺市立平和と人権資料館蔵 |
| 高知大空襲資料 | 平和資料館・草の家蔵 |
| 高松大空襲資料 | 高松市歴史資料館蔵 |
| 徳島大空襲資料 | 当館蔵 |
| 模擬原爆パンプキン | 瑞龍寺蔵 |
| 原爆被災資料 | 広島平和記念資料館蔵 |
| 原爆被災資料 | 長崎国際文化会館蔵 |
| 丸木位里画「火 第2部」原爆の図丸木美術館蔵 | |
| 御署名原本「終戦の詔書」(複製) | 国立公文書館蔵 |

- | | |
|------------|--------------|
| 終戦玉音盤 | NHK 放送博物館蔵 |
| 日本国憲法・官報号外 | 衆議院事務局憲政記念館蔵 |
| シベリア抑留資料 | 当館蔵 |
| 吉田勇画「祈り」 | 吉田勇氏蔵 |

- 観覧料 無料
- 期間中の観覧者数 14,618人
- 記念講演会 11月5日(日)
講師：三浦秀夫氏(春日井の戦争を記録する会代表)
演題：アメリカ軍資料から見た原爆投下作戦
会場：21世紀館イベントホール
入場者：106人



空襲警報下における県民のくらし (3畳居間復元)



「戦争から豊かな未来へ」展記念講演会

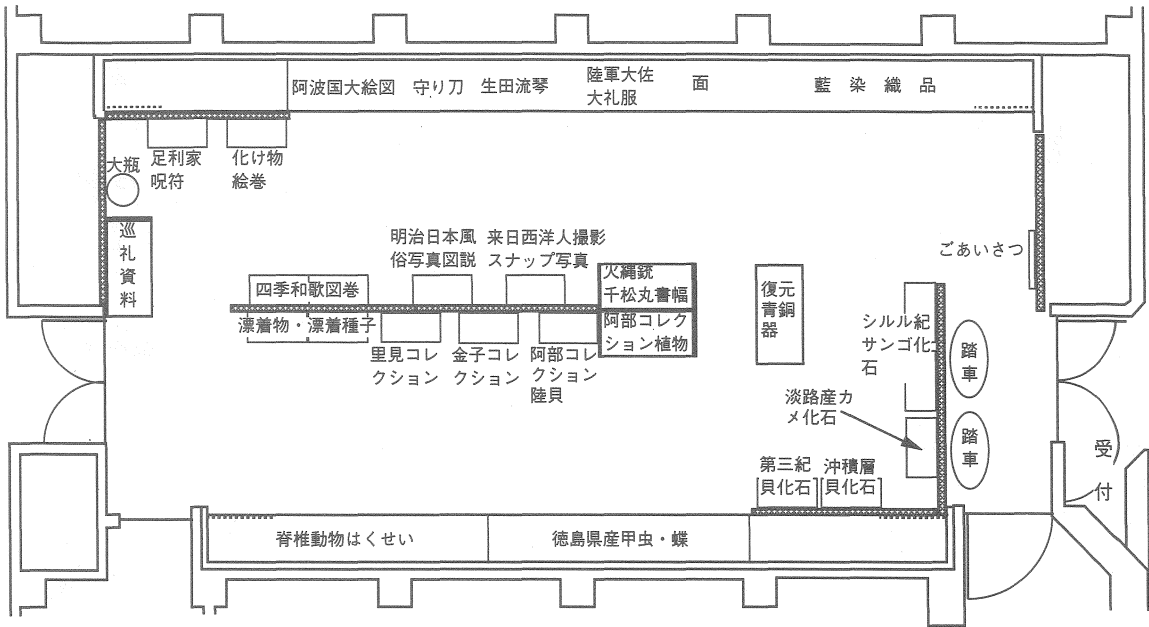
3. その他の展示会

(1) 収藏品展

当館では、寄贈・購入・採集・交換・寄託など、様々な方法で資料の収集を行っている。これまでに収集された資料は約28万点にのぼるが、常設展示や企画展で展示された資料はこれらのうちごく一部で、展示されたことのない資料も多数ある。

このような、あまり展示の機会のない資料を紹介し、県民に博物館の活動を広く知っていただくため、平成4年度につき「収藏品展」を開催した。展示資料点数は約3,000点である。また、少しでも多くの県民に見ていただけるよう、観覧料は無料とした。

- 期間 平成8年2月16日～3月17日
- 会場 博物館企画展示室
- 主な展示資料
阿部コレクション(植物・陸貝)
徳島県産甲虫・蝶
新着鳥獣剥製、漂着種子
ゴトランド島産シルル紀化石、淡路島産カメ化石
巡礼資料、足利家まじない札、復元青銅器
常信筆四季和歌図巻、藍染織品、火縄銃
陸軍大佐大礼服、生田流琴
阿波国大絵図、松平千松丸書幅
明治日本風俗写真図録



来日西洋人撮影スナップ写真帳

- 入場者数 5,358人（大人4,036人、高校・大学生259人、小・中学生795人）

4. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「よみがえる古代の輝き」

1995年4月20日発行、A4判79ページ、700部+友の会増刷分300部

●第3回企画展図録「戦争から豊かな未来へ」

1995年10月17日発行、A4判76ページ（16カラー図版）、700部+友の会増刷分300部

Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示、質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、複数の学芸員グループで、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。現在、館長以外に14名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。また、普及係の2名(教員)もそれぞれの専門を生かした調査研究を行っている。

1. 分野別(個別)調査研究

大原賢二(動物・昆虫)

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

農業環境技術研究所蔵の松村松年コレクションの調査を行い、ハナアブ科のタイプ標本の研究を行った。

②日本産ラクダ目シ目の分類学的研究

日本産のラクダ目シ目の研究を行った。日本にはこれまで1種しかいないと考えられていたキスジラクダ目シ科に、四国産の種をはじめ他に3種ほど産することがわかった。

佐藤陽一(動物・脊椎動物)

①穴吹川水系の魚類相調査

8月15～17日および9月19～21日の6日間をわたって、上流域から下流域まで12カ所で採集調査を行った。

②五明谷川の魚類相調査

9月19日と10月16日の2日間、上流域と下流域の2カ所で採集調査を行った。

田辺 力(動物・無脊椎動物)

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を、徳島市にて土壌無脊椎動物の調査を行った。

②日本産ヤスデ類の分類学的研究

ババヤスデ属について形態解析を行った。また、モリヤスデ属の分類学的再検討を行い報告した(ロシア科学アカデミー S. I. Golovatch らと共同)。

小川 誠(植物)

①博物館の収集保存活動におけるパソコンの利用

資料の収集保存を効率的に行うために、バーコードのシステムの導入とラベル印刷の方法について検討を行った。

②ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るために、ワタヨモギとイワヨモギの分布調査を行った。

鎌田磨人(植物)

①平成7年度阿波学会の調査の一環として、北島町の植物群落調査を行った(徳島大学 石井愷義氏、森本康滋氏らと共同)。

②池田町黒沢湿原の維持・管理を行う上での基礎資料収集の一環として、植物群落の分布および植物相把握のための調査を行った(黒沢湿原植物保護調査研究会:代表 高知大学理学部 中山三男教授らと共同)。

③吉野川における流域の環境変化と河川内植生との相互作用について考察するために、州上の植生の分布、構造等を調査した(徳島大学 岡部健士氏らと共同)。

両角芳郎(地学)

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群より産出するアンモナイト、特にディディモセラス類の分類学的検討を行った。

②勝浦川流域の下部白亜系産化石に関する研究

立川層から産出した恐竜の化石がイグアノドン科の恐竜の歯であることを明らかにし、その記載、産出の意義についてまとめて研究報告に投稿した(当館亀井館長らと共同)。

③ヨーロッパの科学系博物館の実状調査

文部省の社会教育主事等海外派遣(学芸員特別コース)に参加し、大英自然史博物館をはじめ、イギリス、ドイツ、イタリア、フランスの自然史系・科学系博物館の実状を調査した。

中尾賢一(地学)

①鮮新世～更新世の暖流系貝化石の調査

沖縄県・宮崎県・長崎県・高知県で産状観察・採集を行い、それぞれの群集構成を調べ比較した。

②鳴門海峡産ナウマンゾウ化石の研究

当館所蔵のナウマンゾウ化石のうち、臼歯以外について計測した(当館亀井館長と共同)。

③北島町の地下地質の調査

平成7年度阿波学会の調査の一環として、北島町周辺地域の地質を調査した（徳島大学石田啓祐氏らと共同）。

④北有馬層の堆積相と貝化石の調査

第二瀬戸内累層群に属する口之津層群北有馬層で、堆積相と貝化石の産状の観察を行った。

天羽利夫（考古）

①徳島県の考古学研究史

戦後50年を機に、戦後、徳島県で考古学の研究がどのように行われてきたか調査し、まとめた。

②四国における考古学研究の成果と動向

最近10年間の四国における弥生時代から古墳時代の主要な考古学研究をまとめ、その成果と動向を探った。

③博物館常設展の展示更新調査

常設展の全面更新がどのような経緯で進められてきたか、また新旧の展示のねらいとその効果など、北海道開拓記念館を中心に調査した。

高島芳弘（考古）

①縄文時代における石器石材の利用

県内で採集した石器について、サヌカイト、チャートおよび黒曜石の比率に検討を加えた。また、それぞれの産出地から原石を採集し、石器の産地同定の準備を行った。

魚島純一（保存科学・考古）

①出土遺物等の構造調査・材質調査

県内から出土した金属製遺物および企画展「よみがえる古代の輝き」に出品された資料のうち、所蔵者の承諾を得た資料のX線透過撮影による構造調査および蛍光X線分析による材質調査を行った。

②出土赤色顔料の同定

県内から出土した赤色顔料関係遺物の蛍光X線分析による同定を行った。

③外部依頼による調査

相生町教育委員会の依頼を受けて赤外線テレビカメラによる位牌の判読を行った。また、愛媛県埋蔵文化財調査センター、高知県埋蔵文化財センターなどの依頼を受けて、出土文化財等のX線透過撮影による構造調査、蛍光X線分析による材質調査などを行った。

山川浩實（歴史）

①15年戦争に関する調査研究

平成7年度開催の文化の森開園5周年記念企画展「戦争から豊かな未来へ」の準備の一環として、次の課題についての調査研究を行った。

- ・アジアへの侵略とアジア民族の抵抗
- ・侵略戦争の荷担と抵抗

②四国防衛軍第六特攻戦隊基地の調査

阿南市小勝島に配置された旧日本海軍の特攻隊基地と周辺の関連施設に関する聞き取り調査、特攻隊基地跡の施設調査を行った。

③四国防衛軍本土決戦陣地の調査

高知県香美郡土佐山田町新改字東谷に配置された旧日本陸軍の四国防衛軍第55軍司令部の本土決戦陣地と、高知市介良に配置された歩兵第43聯隊（徳島）の陣地に関する聞き取り調査、両陣地跡の調査を行った。

長谷川賢二（歴史）

①中世修験道史の研究

仙光寺文書に含まれる山伏集団についての記載のある史料の性格を検討した。また、醍醐寺文書における修験道関係史料の調査、九州の山岳霊場（英彦山、求菩提山、国東半島）や沖縄の熊野信仰霊場の現地調査、関連文献の収集を行った。

②博物館における部落問題関係資料の保存・利用の現状と問題点についての検討を行った。あわせて、学校部落史教材をもとに、教育内容と研究状況の相関を検討した。

庄武憲子（民俗）

①平成7年度阿波学会の調査の一環として、北島町の地神信仰についての調査を行った（岡島隆夫氏および生光学園東田壘美氏と共同）。

大橋俊雄（美術工芸）

①蒔絵師飯塚桃葉の研究

飯塚桃葉に関する幕末・明治の資料について分析してまとめた。また、作品についても調査し成果をまとめた。

②徳島藩の御用絵師に関する調査研究

藩の御用絵師について、作品の所在調査、粉本類の分析などを行った。成果は平成9年度の企画展で発表する予定である。

2. 課題調査

平成7年度は、次の3つの課題調査を行った。

(1) 黒潮の道－沖縄の自然と民俗

前年度の八重山地方に引き続き、黒潮に係る調査として沖縄本島および周辺島嶼の自然史、民俗などの調査を行った。また、一部は八重山地方にも足をのばして追加調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：亀井節夫（館長・地学）、大原賢二（昆虫）、小川 誠（植物）、田辺 力（無脊椎

動物)、鎌田磨人(植物)、中尾賢一(地学)、庄武憲子(民俗)、魚島純一(考古)、長谷川賢二(歴史)

館外調査者: 林 正美(埼玉大学教育学部助教授・昆虫)、与那嶺一子(沖縄県立博物館・美術工芸)、萩尾俊章(沖縄県立博物館・歴史)

現地協力者: 金城政勝(琉球大学熱帯生物研究センター西表実験所・昆虫)

●調査日程

第1回: 9月19日～9月25日、石垣島・沖縄本島(庄武)

第2回: 9月22日～9月28日、沖縄本島・宮古島(亀井・中尾)

第3回: 10月4日～10月10日、沖縄本島(大原・林)

第4回: 10月21日～10月27日、沖縄本島(魚島・長谷川)

第5回: 10月23日～11月4日、与那国島・石垣島・西表島・竹富島・波照間島・沖縄本島(庄武)

第6回: 11月11日～11月17日、沖縄本島・渡嘉敷島・渡名喜島・伊平屋島(田辺)

第7回: 11月25日～12月7日、与那国島・宮古島・沖縄本島・渡名喜島(小川)

第8回: 平成8年2月22日～3月3日、石垣島・西表島・竹富島・沖縄本島(鎌田・庄武)。なお、鎌田は文部省科学研究費での調査を行った。

第9回: 3月6日～3月12日、沖縄本島(魚島)

館外調査者による徳島県調査

2月13日～2月18日の日程で、沖縄県立博物館の与那嶺・萩尾両氏による徳島県の藍作り、藍染関係資料の調査、鳥居龍蔵の調査を行った。

●調査内容

- ・各島の動植物相の調査・収集、分布調査
- ・海岸の漂着物の調査
- ・石垣島の祭りの調査
- ・竹富島の木材利用の調査
- ・沖縄県の遺跡調査

(2) 前山古墳群の調査

名西郡石井町の前山公園南の山頂で確認された前方後円墳2基の測量調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員: 天羽利夫・高島芳弘・魚島純一(考古)、大橋俊雄(美工)

館外調査者: 阿部里司(阿南市教育委員会)、北條芳隆(徳島大学)、市川欣也(徳島市教育委員会)、柏野壽一、栗林誠治・大北和美(徳島県埋蔵文化財センター)、三宅良明(徳島市教育委員会)、奈

賀哲人(石井町教育委員会)、中川 尚(徳島大学)、岡山真知子(鳴門教育大学)

●調査の日程と概要

2月7日: 隣の山頂の三角点(H=173.9m)よりレベル移動(高島・魚島)

2月10日: 2基の古墳の墳丘およびその周辺で雑木や立ち枯れ松などの伐採、下草刈り。測量の基準点に杭打ち。トラバースを組む。(天羽・阿部・北條・市川・柏野・三宅・奈賀・高島)

2月11・12日: 平板3台を使って、1号墳・2号墳の墳丘とその周辺を測量。トラバースが組み上がる(天羽・阿部・北條・市川・柏野・栗林・三宅・奈賀・中川・岡山・大北・高島・魚島)

2月15・16日、3月2日: 平板1台を使って墳丘の周辺を補測(天羽・柏野・奈賀・大橋・高島)

(3) 山岳霊場をめぐる宗教空間の調査—登拝ルートの復元を中心に—

昨年度からの継続調査として実施した。ただし、諸般の事情から、県内調査(高越山登拝ルートの踏査と周辺石造物の記録)を行うことができなかったので、8年度に補うことにする予定である。

●調査メンバー

博物館学芸員: 長谷川賢二(歴史)

館外調査者: 大石雅章(鳴門教育大学助教授)

●調査の日程と概要

11月13日～19日: 九州の山岳霊場(英彦山、求菩提山、国東半島)調査(長谷川)

12月12日～13日: 東京大学史料編纂所調査(長谷川・大石)

- ・九州の主要霊山(英彦山、求菩提山、国東半島)の登拝ルートの踏査、現地景観の確認、関係宗教施設の分布調査、資料所在調査
- ・東京大学史料編纂所に架蔵されている醍醐寺文書目録・写真、徳島県宗教史関係史料の調査
- ・関連各種資料・研究成果の収集と検討

3. 文部省科学研究費補助金による研究

●総合研究(A): 景観システムの基礎的解析法の開発と標準化(平成7～8年度)

研究代表者: 中越信和(広島大学総合科学部助教授)
当館の研究分担者: 鎌田磨人

●奨励研究(B): ババヤスデ属(ヤスデ綱ババヤスデ科)の形態に関する地理的変異の解析

研究者: 田辺 力

4. 他機関との共同研究

- (財)河川環境管理財団の河川整備基金の助金による共同研究：「河川内植生と河状の相互作用に関する研究」(平成6～7年度)
研究代表者：岡部健士(徳島大学工学部助教授)
当館の研究分担者：鎌田磨人

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第5号

1995年12月25日発行、B5判119ページ、1200部

(*印は館外著者)

- 両角芳郎・亀井節夫・田代正之*・菊池直樹*・石田啓祐*・東洋一*・橋本寿夫*・中尾賢一：徳島県浦町の下部白亜系立川層から産出した恐竜類化石。
p. 1-9.
- 中尾賢一：那賀川平野の沖積層産貝類化石—古環境と¹⁴C年代—。p. 11-43.
- 佐藤陽一：宮川内谷川(吉野川水系)の魚類相。p. 45-66.
- 高橋弘明*：蛸瀬川におけるゴマハゼ *Pandaka lidwilli* の分布・出現様式。p. 67-74.
- 高島芳弘・那賀川流域の縄文遺跡調査グループ：徳島県那賀川流域における縄文遺跡の分布とその遺物。
p. 75-119.

(2) 博物館ニュース“Culture Club”欄記事

- 大原賢二：アサギマダラの旅。No. 18, p. 2-3.
- 徳野壽治：文化の森へ行こう。No. 19, p. 2-3.
- 鎌田磨人：海からのメッセージ。No. 20, p. 2-3.
- 亀井節夫：わたしは怪獣? No. 21, p. 2-3.
- 庄武憲子：田芋を知りませんか? No. 22, p. 2-3.

(3) 当館刊行物以外への掲載(*印は館外の研究者)

<動物>

- 大原賢二(1995.12) ホソヒラタアブ。「昆虫ウォッチング」, 平凡社(共著).
- 佐藤陽一(1995.11) 海部川水系の魚類. 海南町史編さん委員会編, 海南町史上巻: 92-99.
- Golovatch, S. I. *, E. V. Mikhailjova* and T. Tanabe (1995. 6) Review of the East Asian Millipede Genus *Haplogonosoma* Broelmann, 1916 (Diplopoda, Polydesmida, Paradoxosomatidae). Proceedings of the Japanese Society of Systematic Zoology, (53): 71-80.
- 田辺力(1995. 8) 貝の世界1-6. 徳島新聞8月

1日-3日, 5・8・9日夕刊.

<植物>

- Hong, S.-K. *, N. Nakagoshi* and M. Kamada (1995. 7) Human impacts on pine-dominated vegetation in rural landscapes in Korea and western Japan. Vegetatio, 116: 161-172.
- 鎌田磨人・曾宮和夫*(1995.10) 東部四国山地における景観構造の空間的および時間的比較. 野生生物保護, 1: 77-90.
- 鎌田磨人・太田陽子*・岡部健士*(1995.11) 流域の変化と河川植生. 国際景観生態学会日本支部会報, 2(5): 1-3.
- 鎌田磨人(1995.12) IALE 95 (Toulouse, France) 参加記録. Parallel sessions; Agricultural approach. 国際景観生態学会日本支部会報, 2(6): 6-7.
- 鎌田磨人(1995.12) 平成7年度(第39回)地区大会記事. 日本生態学会中国四国地区会・地区会報, (53): 1.
- 岡部健士*・鎌田磨人・湯城豊勝*・林雅隆*(1996. 3) 交互砂州上の植生と河状履歴の相互関係—吉野川における現地調査. 水工学論文集, 40: 205-212.
- 中田政司*・関太郎*・伊藤隆之*・小川誠・松岸得之助*・熊谷明彦*・工藤信*(1995.12) 最近道路法面に発見されるキクタニギクとイワギクについて植物地理・分類研究, 43(1-2): 124-126.

<地学>

- 亀井節夫(1995. 5) 地中からのメッセージ「もの」と「ところ」について. 全人教育, (563): 2-10.
- 亀井節夫(1995. 5) 書評: 徳島建設文化研究会編「阿波の絵図」. 第四紀研究, 34(2): 122-123.
- 亀井節夫(1995. 6) 書評: 第四紀資料分析法. 地質学雑誌, 101(6): 470.
- 亀井節夫(1995. 6) 書評: Morphological Change in Quaternary Mammals of North America. 地質学雑誌, 101(6): 470-471.
- 亀井節夫(1995. 7) チャールズ・ダーウィンと私. 村田全編「学問の中の私」, 玉川大学出版部: 129-145.
- 亀井節夫(1995.10) 書評: 化石の世界—ニワトリが先か, タマゴが先か. 第四紀研究, 34(4): 319-320.
- 亀井節夫(1995.12) 書評: The Human Form in Palaeolithic Art. 第四紀研究, 34(5): 381-383.
- 亀井節夫(1996. 1) 深泥が池にて. 「京を歩けば」(第2版), 三洋化成工業: 110-112.
- 亀井節夫(1996. 1) 深草の象. 「京を歩けば」(第2

- 版), 三洋化成工業: 244-247.
- 亀井節夫 (1996. 3) 旧象現象. 月間健康, (442): 50-51.
- 亀井節夫 (1996. 3) 琵琶湖にゾウがいたころ. 平成6年度「学術の成果を生かした内外地域間交流モデル事業報告書」, 日本学術会議: 416-424.
- 亀井節夫 (1996. 3) 古生物学. 山口ほか編著「学問の世界」(新装版), 駿々堂出版: 294-304.
- 石田啓祐*・橋本寿夫*・中尾賢一・寺戸恒夫*・森永宏*・森江孝志*・福島浩三* (1995. 3) 那賀川平野の沖積層. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査, 那賀川町」(郷土研究発表紀要41号): 1-19.
- 〈考古〉
- 天羽利夫 (1995. 10) 四国の考古学-弥生・古墳時代の研究成果と動向-. 考古学ジャーナル (394): 2-3.
- 天羽利夫 (1995. 11) 全国古墳編年集成-阿波-. 石野博信編「全国古墳編年集成」, 雄山閣出版: 56-59.
- 天羽利夫 (1995. 11) 戦後50年徳島文化史-考古学 (1-10). 徳島新聞11月9-20日朝刊.
- 天羽利夫 (1996. 2) 新たに発見された徳島県前山1・2号墳. 中四研だより, (3): 6-7.
- 魚島純一 (1994. 3) 蓮華谷古墳群 (II) 2号墳の赤色顔料の分析について. 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告4, 徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団: 136-137.
- 魚島純一 (1994. 3) 蓮華谷古墳群 (II) 2号墳の四神形鏡の蛍光X線分析について. 四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告4, 徳島県教育委員会・徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団: 138-142.
- 魚島純一 (1995. 3) 近見小学校裏山古墳群 (仮称) B号墳主体部出土赤色顔料の蛍光X線分析について. 相の谷古墳群杉谷支群埋蔵文化財発掘調査報告書, 愛媛県埋蔵文化財調査センター: 55-61.
- 魚島純一 (1995. 8) 保存科学の最先端. アエラムック9 芸術学がわかる, 朝日新聞社アエラ発行室: 150.
- 〈歴史〉
- 山川浩實 (1995. 6) 米軍資料から見た徳島大空襲 (上・下). 徳島新聞6月23・24日朝刊.
- 長谷川賢二 (1995. 10) 中世阿波の山伏集団に関する問題-二系列集団対抗論への疑問-. 四国中世史研究, (3): 34-52.
- 高野昭之助*・守安敏司*・新井勝紘*・長谷川賢二* 高橋和男*・前川 修*・朝治 武* (1995. 11) 座談会人権情報発信地への展望. ヒューマンライツ, (92): 6-23.
- 長谷川賢二 (1996. 1) 『県史』その後-時代別研究状況-古代・中世. 史窓, (26): 38-47.
- (4) 学会・研究会等での発表 (*印は館外の研究者)
- 大原賢二 (1996. 3) 日本産ラクダ目シ目の分類学的再検討. 日本昆虫学会第56回大会・第40回日本応用動物昆虫学会大会合同大会 (山口).
- 佐藤陽一 (1995. 10) 吉野川水系穴吹川の魚類相. GORI研究会 (島根).
- 鎌田磨人 (1995. 5) 徳島県剣山系におけるササ草原の分布とその成立過程. 第39回日本生態学会中国・四国地区大会 (徳島).
- 西浦宏明*・鎌田磨人・森本康滋* (1995. 5) 黒沢湿原の植生-その20年間の変化. 第39回日本生態学会中国・四国地区大会 (徳島).
- 太田陽子*・鎌田磨人・岡部健士* (1995. 5) 一級河川・吉野川における流域の変化と河川内木本の分布動向. 第39回日本生態学会中国・四国地区大会 (徳島).
- 岡部健士*・鎌田磨人・太田陽子*・林 雅隆* (1995. 5) 河川砂州上の植生と河状の相互関係. 第39回日本生態学会中国・四国地区大会 (徳島).
- 林 雅隆*・板東礼子*・岡部健士*・鎌田磨人 (1995. 5) 砂州上の植生と河状の相互関係. 平成7年度土木学会四国支部技術研究発表会 (高松).
- 鎌田磨人・太田陽子*・岡部健士* (1995. 6) 流域の変化と河川植生. 第5回国際景観生態学会日本支部大会 (つくば).
- Kamada, M. and N. Nakagoshi* (1995. 8) Cultural factors to establish the landscapes in mountainous farm regions in southwestern Japan. Congress of the International Association for Landscape Ecology; Pararell session "Agricultural Approach". (Toulouse, France).
- 林 雅隆*・岡部健士*・板東礼子*・鎌田磨人 (1995. 9) 砂州上の植生と河状の相互関係に関する現地調査. 土木学会第50回年次学術講演会 (松山).
- 鎌田磨人・岡部健士*・林 雅隆* (1996. 3) 一級河川・吉野川における交互砂州上の植生分布と河状履歴. 第43回日本生態学会大会 (八王子).
- 太田陽子*・鎌田磨人・岡部健士* (1996. 3) 河川内の木本の分布に及ぼす流域の諸環境. 第43回日本生態学会大会 (八王子).

- T. Tanabe and K. Shinohara*(1996. 3) Searching Phenogeographic units : an application of cluster analysis to the delimitation of milliped species. Fifth Conference of International Federation of Classification Societies (Kobe).
- 魚島純一 (1996. 3) 博物館における保存科学－徳島県立博物館の場合－. 考古資料保存研究会 (東京).
- 長谷川賢二 (1995. 6) 中世阿波の山伏集団について. 徳島地方史研究会例会 (徳島).
- 長谷川賢二 (1995. 8) 中世阿波の熊野信仰史料. 中世史研究会 (大阪).

6. 研究会・学会等の開催

- 第6回中四国縄文研究会 6月3～4日
 テーマ：縄文時代晩期の土器編年－突帯文の発生と展開を中心として－
 会場：21世紀館イベントホール
 参加者：161名
 基調報告：4件
 事例報告：7件
- 第9回古代学協会四国支部大会 12月2～3日
 テーマ：四国における横穴式石室の成立と展開
 会場：21世紀館イベントホール
 参加者：130名
 研究発表：13件
- 四国地区歴史系学芸員・アーキビスト交流集会
 2月17日～18日
 会場：博物館講座室・徳島市立徳島城博物館和室
 参加者：38名
 日程：17日 自由見学（文化の森総合公園）
 報告・討議「地域博物館・文書館の現状と課題」（報告6件）
 懇親会
 18日 講演 内田九州男氏（愛媛大学教授）
 「最近の学芸員論と私たちの課題」
 自由見学（徳島城博物館）
- 第23回四国魚類研究会 3月16～17日
 会場：博物館講座室
 参加者：88名
 研究発表：33件

Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能である。徳島の自然や歴史・文化に関する資料は可能なかぎり網羅的に収集することはもちろん、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として四国や西日本の資料も収集していくことにしている。とくに自然の各分野については、日本の地史や生物相の形成に深い関係のある中国大陸や東南アジアをはじめ、海外まで目をむけた収集も必要になるだろう。

資料の収集は、購入・寄贈・採集・交換など、様々な方法で行っている。最近では、県民からの資料の寄贈も増えてきている。資料の購入には美術品等取得基金を当てている。

平成7年度は5名（人文2、自然3）の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 購入資料

●動物

ミンククジラの骨格	1体
ホネガイ拡大模型	1個
貝類拡大模型	12個
アケキガイ科貝類	63個
リーチ「中国・日本・朝鮮の蝶類」	3冊

●植物

本草図譜	95点
廻国奇観	1点
校正救荒本草・救荒野譜並補遺	8点
草木性譜・有毒草木図説（特装版）	5点
日本（復刻版）	6点
カーティスの植物画	5点

●地学

合成鉱物	8点
外国産鉱物	10点
ゴトランド島産シルル紀化石	10点
自然金	1点
燐灰石ほか鉱物標本	19点

●考古

田村谷銅鐸レプリカ	1個
-----------	----

復元青銅器 3点

●歴史

修験道教義関係資料	8冊
松平阿波守書状 稲田修理宛	2通
徳川家光書状 松平阿波守宛	1通
防衛食器（1・2・3・5・12・15号）	6個
太平洋戦争白書—アメリカ合衆国戦略爆撃調査団 報告書（復刻）	50冊
古代・中世史料複製	3点
東北院歌合複製	1巻
戦時スローガン陶製マッチ箱	10個
阿波国徳嶋城之図	1枚
日中戦争関係絵はがき	207枚

●民俗

藍染織品	27点
刻煙草版木	20点

●美術工芸

四季和歌図巻	1巻
源氏物語図	1幅
松に鷹図	1幅

2. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

ハクビシン	1点	谷中登希男氏
肱川産魚類液浸標本	12点	辻 幸一氏
ゴイスギ	1点	原 道一氏
ツミ	1点	富永 博氏
タワヤモリ	1点	美馬クニヲ氏
徳島県産淡水魚液浸標本	多数	徳島淡水魚研究会
アロワナ	1点	出口 健一氏
打樋川産魚類液浸標本	多数	高橋 弘明氏
テツギョほか	2点	市原 眞一氏
魚類液浸標本	多数	田端 重夫氏
ニホンザル	1点	渋谷 光正氏
タワヤモリ	1点	片山 泰雄氏
ヤマカガシ	1点	鶴居津喜子氏
紀伊水道産魚類	3点	原 道一氏
ニホンカモシカ	1点	県教育委員会文化財課
コサギほか鳥	3点	日本野鳥の会徳島県支部
シュレーゲルアオガエル	1点	河野 圭典氏
淡水魚液浸標本	多数	洲澤 譲氏
ホオジロ	1点	市原 眞一氏
高知県浦ノ内湾流入河川産魚類液浸標本	3点	高橋 弘明氏
テツギョほか	3点	市原 眞一氏
セグロアジサン	1点	橋本 是徳氏

魚類・水産関係書籍	74点	野口 利之氏
ソウギョ写真	1点	徳島新聞阿南支局
イノシシ頭骨ほか	2点	和田 賢次氏
キツネ	1点	大住 文宣氏
ドンコ	2点	岡崎 孝博氏
ハクビシンほか哺乳類	7点	谷口 晃司氏
ヒドリガモ	1点	東條 秀徳氏
イタチ	1点	友成 孟宏氏
タイマイ剥製ほか	2点	和田 賢次氏
コウモリ類	3点	友成 孟宏氏
ミサゴほか鳥類	9点	日本野鳥の会徳島県支部
オオバンほか	2点	吉田 和人氏
ダイサギ	1点	東條 秀徳氏
イタチ	1点	友成 孟宏氏
タヌキ	1点	友成 孟宏氏
イタチ	1点	友成 孟宏氏
ヤマネ	1点	杉本 孝司氏
ヤマネ	1点	阿南農林事務所
ハヤブサ	1点	日本野鳥の会徳島県支部
イタチ	1点	東條 秀徳氏
コサギ	1点	吉成 宏征氏
ヤマネ	1点	日和佐農林事務所
イノシシ頭骨	2点	中川 昭彦氏
カワヨシノボリ・インドジョウ模式標本ほか	1,667点	水野 信彦氏

●動物(無脊椎動物)

トビズムカデ	1点	原 道一氏
タカアシガニ	1点	平岡位佐夫氏
カラスガイ	2点	佐藤 仁志氏

●植物

栽培イネ	2種2点	宮内 一馬氏
さく葉標本	7点	森本 康滋氏
さく葉標本	1点	猪俣 栄一氏
さく葉標本	約1,000点	藤本 義昭氏
さく葉標本	2点	片山 泰雄氏
さく葉標本	約400点	矢内 正弘氏
さく葉標本	1,000点	里見 信生氏
瓶史草本備考(上下2巻)・瓶史完附録	3点	里見 信生氏

●地学

サファイアを含んだ砂	1点	長谷川 誠氏
日本産ホタテガイ類・キリガイダマン類化石	19点	小笠原憲四郎氏
愛媛県土居町産鉱物・岩石	2点	千葉 昇氏
風化砂岩・浚渫土中の貝殻	3点	河野 圭典氏
膀胱結石	1点	江田 信豊氏

淡路島産カメ化石	1点	鎌田 誠一氏
ナウマンゾウ臼歯	1点	澤辺 文夫氏
シロウリガイ化石	1点	横浜防衛施設局

●歴史

護符	57点	福原 健生氏
旧日本軍用ナイフ	1点	本田 幸二氏
旧日本軍用ランプ	1点	福井 修二氏
旧日本軍少尉遺品	10点	石川 圭伸氏
シベリア抑留資料	5点	河野 幸雄氏
徳島藩上屋敷復元模型	1点	貞光工業高等学校
郵便差出箱(丸型1号)	1点	しらすぎ台郵便局長

●民俗

獅子舞衣装ほか	29点	福原 健生氏
三番叟鈴ほか	20点	早瀬ハマノ氏
毛羽くり器ほか	16点	松村 邦一氏
鍬ほか	53点	野尻 芳明氏
毛羽くり器ほか	5点	板東 寿氏
タテフゴほか	9点	斎 秀夫氏
サカナカゴほか	19点	日野 総一氏
シュロ箒	2点	北原 国雄氏
カンドリ舟	1点	原 久夫氏

3. 寄託資料

●考古

田村谷銅鐸	1点	田村藤太郎氏
曲り銅鐸	1点	松浦 菊雄氏
安都真銅鐸	1点	高橋 浪子氏
突線6区袈裟褌文銅鐸	1点	徳島県教育委員会文化財課

●歴史

足利家呪符	1点	富樫 栄一氏
徳島城天守閣模型	1点	貞光工業高等学校
徳島城下町絵図他	2点	寺戸 恒夫氏
龍吐水他	2点	久次米義文氏

●民俗

徳島県内河川筏関係資料	24点	森 庸子氏
-------------	-----	-------

●美術工芸

飯塚桃葉筆 朝暉曳馬図	1点
守住貫魚筆 風景図・花卉図	4面
守住貫魚筆 布袋図ほか	5点
中山勝哲筆 猿猴図ほか	2点

4. 資料の貸し出し

●動物

シロチチブ液浸標本 3点
横川浩治氏（香川県水産試験場）

ベニハゼ属魚類液浸標本 12点
萩原清司氏（鹿島建設技術研究所）

イタチ仮剥製 7点 友成孟宏氏（福井南小学校）

●考古

赤色顔料サンプル 2点 徳島県埋蔵文化財センター
安都真2・3・4号銅鐸 3点
徳島県埋蔵文化財センター

田村谷銅鐸 1点・安都真1号銅鐸 1点
国立歴史民俗博物館ほか

前山遺跡出土埴輪・須恵器 18点 小松島市立図書館
阿波国関係木簡（複製） 1点 徳島市教育委員会

●美術工芸

渡辺広輝筆 源氏物語図ほか 7点 山陽新聞社
白糸威二枚胴具足ほか 3点 徳島市立徳島城博物館
徳島藩窯大谷磁器窯磁器片ほか 17点

森村健一氏（堺環濠都市遺跡研究会）

●民俗

人形浄瑠璃の頭展示風景写真 1点 赤旗文化部
箱廻し櫃 1点 国立文楽劇場

藍絵図写真（三木文庫蔵） 1点 浜島書店
浮子・沈子 14点

真鍋篤行氏（瀬戸内海歴史民俗資料館）

5. 特筆すべき資料の受入と整理

●阿部近一コレクションの整理（植物）

本コレクションは、徳島県の野外生物学をリードしてこられた故阿部近一氏が、長年にわたる調査の過程で収集された植物さく葉標本、陸産貝類標本、鳥類の仮剥製標本などで、平成6年3月に一括寄贈を受けたものである。

このうち、4万点に及ぶ植物標本の整理には6年度から着手し、7年度には3,078点（累計6,209点）の登録を行った。

●赤澤時之コレクションの整理（植物）

本コレクションは、タヌキノシヨクダイの原記載者である赤澤時之氏が採集した植物標本で、平成2年に寄贈を受け、3年度から順次整理にかかっている。

赤澤コレクションは膨大な量があり、コレクションを整理し終わるまでに相当の時間がかかる見込みである。しかし、整理の間に赤澤コレクションを見

たいという要望がかなりある。標本は分類群ごとにまとめられ、約1,500箱のに分けられており、箱には中身を示すラベルがついている。そのラベルをデータベース化し、目的の標本を取り出すことができるようにした。

●里見信生コレクションの整理（植物）

里見信生氏は石川県在住で、植物地理分類学会（旧北陸の植物研究会）を主宰し、日本植物分類学会会長も務められた植物分類学者である。同氏から5年度・6年度にひき続き約1,000点の植物標本の寄贈を受けた。7年度は6年度寄贈分の整理を行い、700点の標本の整理を終えた。

6. 館蔵資料数

平成8年3月末日現在の分野別収蔵資料数は右表のとおり。

7. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は購入資料に応じて特に必要がある場合に、その都度委嘱される。

7年度は、6月23日に第6回委員会を開催し、人文38件・自然史18件の前年度購入資料の報告を行い、6件の資料の購入を諮問した。

●博物館資料収集委員会委員（常任委員）

（◎委員長、○副委員長）

氏名	役職（専門分野）
生野 勇	日本美術刀剣保存協会評議員 （美術工芸）
石井 愷義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田 啓祐	徳島大学総合科学部助教授（地学）
○高橋 啓	鳴門教育大学学校教育学部教授 （歴史）
◎湯浅 良幸	徳島史学会会長（民俗）

●分野別収蔵資料数（平成8年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	5,405	5,344	55	5	1
（無脊椎）	24,695	24,637	0	58	0
（昆虫）	73,445	73,198	0	2	245
植物	169,221	168,945	56	5	246
地学	3,642	3,599	41	2	0
考古	853	721	68	5	59
歴史	4,577	3,960	20	4	593
民俗	3,776	3,766	5	5	0
美術工芸	4,933	4,929	0	4	0
合計	290,547	289,099	245	90	1,113

8. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数）

8,336冊（平成7年度分 1,116冊）

●購入雑誌

人文系（34タイトル）：季刊考古学，九州考古学，芸術新潮，芸能史研究，月刊文化財，考古学研究，考古学雑誌，考古学ジャーナル，考古学と自然科学，古代学研究，古代文化，国華，古文化財の科学，古文書研究，史学雑誌，地方史研究，地理，日本史研究，日本の美術，日本民俗学，日本歴史，美術研究，美術史，仏教芸術，文化財発掘出土情報，民族学研究，歴史学研究，歴史地理学，歴史手帖，歴史と地理，歴史評論，Annual Review of Anthropology，Folk-Lore，Journal of American Folklore

自然系（33タイトル）：遺伝，インセクタリウム，海洋と生物，貝類学雑誌，科学，科学朝日，月刊海洋，月刊地球，月刊むし，子供の科学，昆虫と自然，生物科学，第四紀研究，地学雑誌，ちりばたん，日経サイエンス，日本応用動物昆虫学会誌，日本生態学会誌，

ニュートン，プラント，American Naturalist，Cladistics，Ecological Research，Entomology Abstracts，Evolution，Geology，Journal of Evolutionary Biology，Journal of Palaeontology，Oikos，Paleobiology，Plant Systematics & Evolution，Trends in Ecology and Evolution，Zoological Science

●当館刊行物の定期発送先数（平成8年3月末現在）

博物館ニュース	1,282ヶ所
博物館年報	418ヶ所
研究報告 国内	445ヶ所
国外	210ヶ所
展示解説	199ヶ所
企画展図録 人文	182ヶ所
自然	87ヶ所

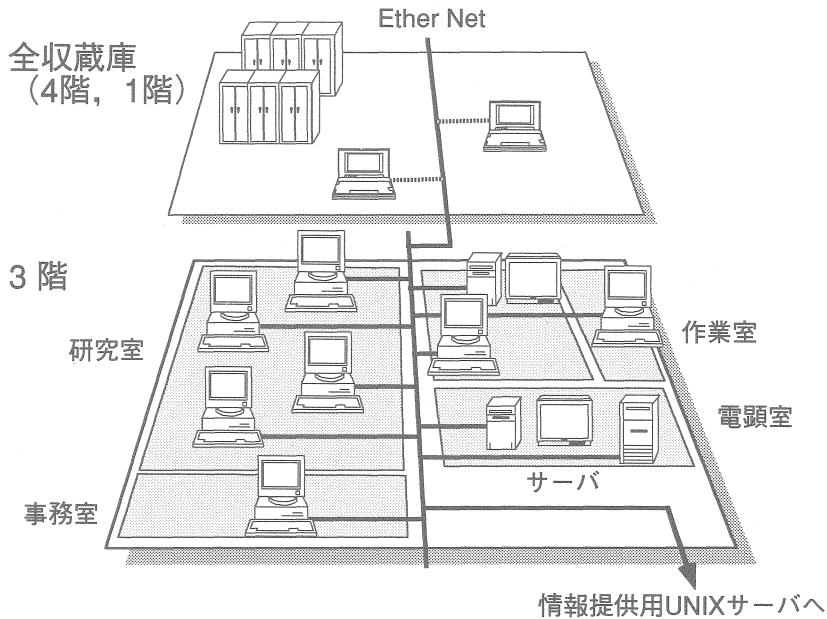
9. 資料データベースシステム

平成6年度末から新システムでの運用が始まった。7年度は、システム改善として、不具合箇所の修正、端末で使用する実用的かつ使用頻度が高いと思われる市販ソフトの追加購入などが行われた。

(1) 改善項目

●端末OSの更新

新システムの設計時点での端末側ハードのOSは漢字Talk7.1.2であった。7年度中に全端末のOSを漢字Talk7.51へ移行した。



●新規に購入された市販ソフト

Adobe Illustrator 5.5 J	2本
Painter 3.1	1本
Delta Graph Pro 3.5 J	1本
Kaleida Graph 3.0 J	1本
Wingz 2.0 J	1本
Orgai Ver. 1.5	3本
Macromedia Director 4.04 J	1本
ファイルメーカー Pro サーバ	1本
Ofoto Ver. 2.0	1本
Mac Reader Pro 3.0	1本
Strate Studio Pro 1.1	1本
オズの魔法使い Vol. 3, Ver. 2	1本

稿ユニット付き)

PolaScan (フィルムスキャナー) 1台
デジタルカメラ 1台 など。

端末機は全て Ethernet 上につながり、LAN の配線は各研究室 (研究室内は各学芸員の机まで)・作業室・収蔵庫まで行った。収蔵庫内の作業には Power Book 540 C を利用することとし、デスクトップ型の設置は行わなかった。

●博物館独自のハード構成

システム更改でのハード構成は、基本的には前システムのマシン台数と同じという制限があり、博物館では部門サーバを人文・自然各1台で分けて管理したいという希望がかなえられなかったため、博物館備品として以下のものを追加して博物館全体のシステムを構成した。

- ・ワークグループサーバ 1台 : Apple Workgroup Server 9150 (内蔵ハードディスク 2 G、48M RAM) および QuaDrive (230MO ディスク + 1 Gハードディスク)

博物館では、これをデータサーバ機とすることにし、それに伴いシステム側から配分された部門サーバ機をアプリケーションサーバ機とした。

- ・Apple Power Macintosh 8100/80 1台 (内蔵ハードディスク 540 M、48M RAM) および QuaDrive (230 MO ディスク + 1 Gハードディスク) 1台

本機は Quadra 840AV のアップグレード機であるが、作業スペースに置いてデータ登録や画像関係

(2) システムの構成

●博物館のハード構成

- ・部門サーバ 1台 : Apple Power Macintosh 8100/80 (内蔵ハードディスク 1 G、48M RAM) および QuaDrive (230MO ディスク + 1 Gハードディスク)
- ・業務用端末 6台 : Apple Power Macintosh 7100/70 (内蔵ハードディスク 500 M、32M RAM) ーうち、3台には QuaDrive (230 MO ディスク + 1 Gハードディスク) が付属。
- ・業務用移動端末 2台 : Apple Power Book 540 C (内蔵ハードディスク 320M、16M RAM)
- ・周辺装置
スキャナー 1台 : EPSON 9500 Art (透過原

の作業などに使用することにした。

- Apple Power Macintosh 9500/132 1台（内蔵ハードディスク2G、98M RAM）

本機は作業スペースに置いて主に画像関係の作業などに使用するため、7年度に博物館独自のシステムに追加した

●データベース用ソフト

図書館と博物館を除く3館は、業務用データベースの構築には4th Dimensionを用いることにしたが、博物館では運用の柔軟性を考え、自然史はFileMaker Pro.2.1を、人文はPanorama IIを使い、各分野ごとに入出力フォーマットを決めることにした。

(3) 運用状況

●資料登録

資料の登録は、各分野の担当学芸員がそれぞれの分野ごとの入力フォーマットを利用して行っている。入力されたデータは博物館データサーバに保存され、システム管理者によって毎日深夜に8mmテープにバックアップされる。

●一般への資料情報の提供

情報提供用には、各館の部門サーバから統合サーバ（UNIX ワークステーション）へテキストおよび画像を送り、システム管理者側で編集したものを提供するという仕様とした。資料管理データのうち、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を統合サーバへ送るためのフォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用の統合サーバにデータが転送されるように設定されている。

提供する情報は、博物館の資料データベースでは視覚的に興味を引きそうなものが少ないので、生物系では産地情報を地図（徳島県および四国のみ）上にプロットとして表示することを行っている。

10. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料および借用了資料は、原則としてすべて、収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。

減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm（約2.3m³）で、燻蒸剤には臭化メチルと

酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成7年度は7回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は、床面積20m²×高さ3m（約60m³）である。常圧燻蒸庫での燻蒸は、文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成7年度は2回行った。

●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなつて、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行うことにしている。

平成7年度は実施しなかった。次回は8年度に実施する予定である。

IV 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接対話できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成7年度は、年間57回の普及行事を実施した。博物館の普及行事が県民のあいだに定着してきており、参加者も徳島市内とその近郊在住者から郡部へと広がりがつつあるが、広報の方法を考慮し、郡部の参加者をもっと増やしたい。実施回数としては最大限であろうと思われるので、今後は、参加者の反応を十分把握しつつ、内容の充実を図っていかなければならない。

1. 普及行事

■体験学習

昔の人の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。7年度から「石器づくり」を新しく実施した。

7月30日(日)	火おこし	46人
10月29日(日)	土器づくり(成形)	40人
11月26日(日)	土器づくり(焼成)	32人
2月11日(日)	石器づくり	24人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、建築物をめぐる見学をした。

6月25日(日)	徳島大空襲戦災記念物めぐり	25人
10月22日(日)	脇町を歩こう	18人
11月12日(日)	一宮城めぐり	19人
12月10日(日)	古墳見学	44人
3月5日(日)	徳島城めぐり	37人

■野外自然かんさつ

季節に応じた動植物の観察や地質見学を行っている。

徳島市眉山周辺のほかに、海部町(県南の植物かんさつ)、阿波町(土柱と周辺の地質見学)、宍喰町(地層と生痕化石のかんさつ)などで実施した。

4月23日(日)	春の植物と昆虫	雨天中止
5月7日(日)	地層と生痕化石のかんさつ	19人

5月14日(日)	磯のいきもの(鳴門)	雨天中止
7月16日(日)	夏の植物と昆虫	40人
9月10日(日)	河口のいきもの	42人
9月16日(土)	鳴く虫のかんさつ	雨天中止
10月15日(日)	秋の植物と昆虫	25人
11月19日(日)	県南の植物かんさつ	50人
2月18日(日)	冬の植物と昆虫	雨天中止
3月24日(日)	土柱と周辺の地質見学	24人

■土曜講座

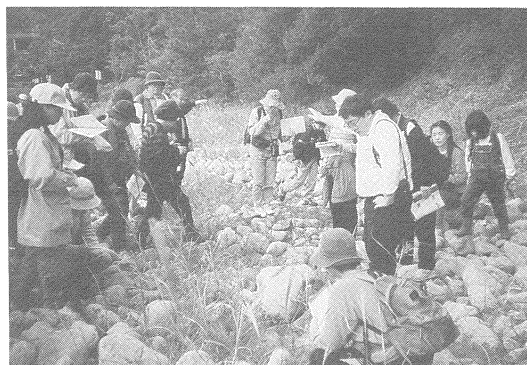
毎月第2土曜日の午後2時から1時間ほど、学芸員が各自の研究テーマ周辺の話題について話をする講座で、申し込みは不要、定員先着50名で実施している。

4月8日(土)	日本の恐竜化石	29人
5月13日(土)	保存科学へのいざない	16人
6月10日(土)	人類の故郷を訪ねて	39人
7月8日(土)	アメリカ軍資料からみた徳島大空襲	61人
8月12日(土)	ハチのはなし	30人
9月9日(土)	蒔絵師飯塚桃葉	28人
10月14日(土)	縄文時代の自然環境	20人
11月11日(土)	やじりのはなし	17人
12月9日(土)	生物のかたち	19人
1月13日(土)	妖怪の世界	54人
2月10日(土)	河口の魚たち	11人
3月9日(土)	徳島の古代寺院	45人

■ミュージアムトーク

テーマにそって数回のシリーズで話をする講座で、「中世の生活誌-『徒然草』を手がかりに-」と「魏志倭人伝を読む-考古学からのアプローチ-」をとりあげた。

4月22日(土)	中世の生活誌-『徒然草』を手がかりに-①うわさ・女・鬼	47人
5月27日(土)	②出産の風俗	41人



野外自然かんさつ「県南の植物かんさつ」



歴史散歩「徳島城めぐり」

6月24日(土)	③盤上ゲーム	34人
10月28日(土)	魏志倭人伝を読むー考古学からのアプローチー①魏志倭人伝を読む	57人
11月25日(土)	②倭人の習俗	58人
12月16日(土)	③銅鏡100枚の謎	45人
1月27日(土)	④卑弥呼の墓	54人
2月24日(土)	⑤邪馬台国談義	49人

■標本の作り方・名前の調べ方

採集した動植物を標本にするのはどのようにしたらよいか、名前を調べるにはどんな点に注意して観察したらよいかを学ぶ講習会。

「標本の名前を調べる会」は毎年8月下旬の恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て行った。単に名前を教えるだけにならないよう、いっしょに調べる姿勢で取り組むように留意している。

7月23日(日)	植物標本の作り方	26人
8月6日(日)	かんたん貝の標本の作り方	45人
8月13日(日)	植物の名前の調べ方	21人
8月22日(火)	標本の名前を調べる会	38人
8月23日(水)	標本の名前を調べる会	88人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察・講習会。内容に応じて、実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

4月16日(日)	火山灰の中の鮎物のかんさつ	14人
6月4日(日)	ミクロの世界	20人
8月20日(日)	レプリカづくり(型どり)	28人
8月27日(日)	レプリカづくり(色つけ)	28人
10月8日(日)	化石スケッチ	4人
12月3日(日)	ミクロの世界	25人
12月17日(日)	落ち葉の中のいきものたち	28人

2月4日(日)	文化財をのぞいて見よう	11人
2月25日(日)	落ち葉の中のいきものたち	32人
3月10日(日)	美術品の取り扱い方	15人

■企画展記念講演会

企画展開催中に、21世紀館イベントホールで次の講演会を行った。

●「よみがえる古代の輝き」展記念講演会

4月30日(日)

講 師：沢田正明氏（奈良国立文化財研究所遺物処理研究室長）

演 題：「文化財保存のハイテク技術」

参加者：200人

●「戦争から豊かな未来へ」展記念講演会

11月5日(日)

講 師：三浦秀夫氏（愛知県春日井の戦争を記録する会代表）

演 題：「アメリカ軍資料からみた原爆投下」

参加者：106人

■開館5周年記念イベント

開館5周年を記念し、次のイベントを行った。

●博物館写生大会 7月28日(金)～30日(日)

参加者：201人

●写生大会作品展 8月30日(金)～9月3日(日)

参加者：1,557人

●博物館クイズラリー 11月3日(金)

参加者：230人

●開館5周年記念講演会 3月17日(日)

講師および演題：

(1) 亀井節夫（徳島県立博物館長）

「氷河時代の動物たち」

(2) 東 潮氏（徳島大学総合科学部教授）

「考古学からみた3世紀の東アジア」

参加者：176人

2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容（依頼者）の順に記す（内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略）。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

4月8日 長谷川賢二 NHK とくしま文化講座（合同講座）で講演「室町時代の呪術」

4月18日 魚島純一 NHK テレビ「ほっとチャンネ

- ルとくしま」出演(企画展「よみがえる古代の輝き」の紹介)
- 4月27日 魚島純一 NHK ラジオ出演(企画展「よみがえる古代の輝き」の紹介)
- 5月20日 佐藤陽一 一宮小学校「水辺教室」講師
- 6月17日 亀井節夫 徳島県生物学会総会で講演「絶滅について」
- 6月25日 両角芳郎 洲本市立淡路文化資料館「淡路島の化石」展記念講演会で講演「和泉層群の地層と化石」
- 6月30日 天羽利夫 徳島勤労青少年福祉員会議で講演「考古学と若者」
- 7月23日 高島芳弘 井川町ふるさと交流センター「縄文土器を焼く会(成形)」講師
- 8月2日 長谷川賢二 徳島県高等学校同和教育研究会「じんけん」編集委員会(部落史関係)助言者
- 8月3日 田辺 力 四国放送テレビ「おはようたくしま」出演(普及行事「磯のいきものの観察」の紹介)
- 8月9日 長谷川賢二 第17回徳島県同和教育夏期講座で講演「中世におけるケガレ観念と女性差別の展開」(徳島県同和教育協議会)
- 8月10日 魚島純一 文書資料保存講座講師(徳島県立文書館)
- 8月23日 長谷川賢二 徳島県高等学校同和教育研究会「じんけん」編集委員会(部落史関係)助言者
- 8月27日 高島芳弘 井川町ふるさと交流センター「縄文土器を焼く会(焼成)」講師
- 8月29日 佐藤陽一 徳島県教育委員会夏季生活科研修講座講師
- 9月8日 長谷川賢二 徳島県教育委員会文化財課課内同和研修「同和問題と宗教」講師
- 9月11・12日 天羽利夫 平成7年度西部地区文化振興会議シンポジウム「文化の振興と地域の活性化」パネラー(文化庁・高知県)
- 9月13日 長谷川賢二 徳島県高等学校同和教育研究会「じんけん」編集委員会(部落史関係)で講演「中世の身分制と被差別民」
- 9月17日 長谷川賢二 座談会「人権博物館の設立と運営」講師(部落解放研究所)
- 9月19日 亀井節夫 徳島県シルバー大学校特別講座で講演「太古の世界をさぐる」
- 10月20日 山川浩實 四国放送テレビ「OUR 徳島」出演(企画展「戦争から豊かな未来へ」の紹介)
- 10月22日 亀井節夫 岩宿文化資料館岩宿大学で講演「岩宿時代に生きた動物」
- 11月3日 亀井節夫 北海道開拓記念館文化の日で講演「北海道における大型化石の発見」
- 11月8日 亀井節夫 平成7年度観察実験指導力向上講座(小学校・西部地区)で講演「理科教育と地域社会」(文部省・徳島県教育委員会)
- 11月8日 両角芳郎・魚島純一 平成7年度観察実験指導力向上講座(小学校・西部地区)講師(文部省・徳島県教育委員会)
- 11月10日 長谷川賢二 徳島県立図書館職場内同和研修で講演「歴史系資料の保存・利用と部落問題」
- 11月11日 天羽利夫 徳島県郷土文化会館郷土文化講座で講演「偉大な人類学者鳥居龍蔵」
- 11月14日 長谷川賢二 徳島県立文書館歴史講座で講演「中世阿波の霊山信仰と山伏」
- 11月18日 天羽利夫 小松島市立図書館小松島のふるさと講座で講演「小松島の古墳」
- 11月25日 両角芳郎 きしわだ自然資料館講座で講演「和泉の山々をつくる地層-和泉層群」
- 12月20日・1月19日 長谷川賢二 徳島県高等学校同和教育研究会「じんけん」編集委員会(部落史関係)助言者
- 2月7日 天羽利夫 大阪府文化財調査研究センター文化財講座で講演「朱の風俗」
- 2月16日 長谷川賢二 徳島県高等学校同和教育研究会「じんけん」編集委員会(部落史関係)助言者
- 2月19日 魚島純一 徳島県市町村埋蔵文化財担当職員研修会講師(徳島県埋蔵文化財センター)
- 3月27日 鎌田磨人 建設大臣官房「生息・生育環境の確保による生物多様性の保全及び活用方法調査の検討会」委員

3. 博物館実習生の受け入れ

平成7年度は、8月21～25日に博物館実習生の受け入れを行った。実習生は14人(男1人、女13人)で、大学別の内訳は次のとおりである。

四国大	5人	神戸大	1人
徳島大	4人	帝塚山短大	1人
徳島文理大	3人		

カリキュラムは右の表のとおりで、指導の都合上、少人数のグループに分割した時間帯もある。各学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理、調査などについての実習を行った。

●7年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前 (9:30-12:00)	午後 (13:00-16:00)	(16:00-16:30)
8/21 (月)	開講 (副館長) 全員	民俗資料の整理 (庄武) A	ノート記入 全員
	オリエンテーション (長谷川) 全員	地学資料の整理 (中尾) B	
	施設概要説明・見学 (天羽) 全員	昆虫標本の整理 (大原) C	
8/22 (火)	美術資料の扱い方 (大橋) A・B	歴史資料の調査と記録 (長谷川) A	ノート記入 全員
		魚類の採集 (佐藤) B	
	「標本の名前を調べる会」補助 (中尾) C1	「標本の名前を調べる会」補助 (中尾) C1	
	地学資料の整理・登録 (両角) C2	地学資料の整理・登録 (両角) C2	
8/23 (水)	考古資料の整理 (高島) A	考古資料の整理 (高島) A	ノート記入 全員
	「標本の名前を調べる会」補助 (中尾) B	「標本の名前を調べる会」補助 (中尾) B	
	歴史資料の整理 (山川) C	歴史資料の整理 (山川) C	
8/24 (木)	企画展について (田辺) 全員	植物標本の整理 (小川) 全員	ノート記入 全員
8/25 (金)	博物館の保存科学 (魚島) 全員	普及教育活動について (徳野・福島) 全員	ノート記入 全員

4. 博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、催し物案内ポスター、企画展ポスター等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動をPRしている。月間行事案内については、県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先 (県内)

小学校	268ヶ所
中学校	96
高等学校・その他学校	63
学会・同好会等	27
県および県教育委員会各課・機関	107
市町村教育委員会	50
公民館・隣保館	210
市町村および大学図書館	27
博物館施設	31

●平成7年度資料提供

4月5日	企画展「よみがえる古代の輝き」の開催について
6月29日	企画展「貝の世界」の開催について
7月12日	部門展示室の展示替えについて
7月18日	博物館開館5周年記念イベント「写生大会」の開催について
10月5日	企画展「戦争から豊かな未来へ」の開催について
12月15日	ミンククジラ骨格の展示について
2月3日	「収蔵品展」の開催について
3月7日	企画展「銅鐸の美」の開催について

以上のほか、美術品等取得基金によって8月末・10

月末・1月末・3月末に購入した資料の内容についても資料提供を行った。

5. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。

編集は博物館ニュース担当者がMacintoshを使って行った。文章やページ割り付け、イラストなどは電子化して、ファイルで印刷業者に渡すため、印刷コストを下げることができ、発行部数の増加やオールカラー化が可能になった。

平成7年度には次の4号を発行した。

●No. 18 (1995年4月10日発行) B5判、12ページ (6カラーページ)、3,000部

Culture Club	アサギマダラの旅
館蔵品紹介	カズハゴンドウ
特集	博物館の普及行事
企画展	よみがえる古代の輝き
情報ボックス	パーソナル電子図鑑をつくらう

●No. 19 (1995年6月25日発行) B5判、8ページカラー、6,000部

Culture Club	文化の森へ行こう
野外博物館	穴喰町竹ヶ島周辺の地層と生痕化石
企画展	貝の世界
情報ボックス	コメントで情報検索

レファレンスQ&A なぜ古墳をつくったの

●No. 20 (1995年9月10日発行) B5判、8ページカラー、6,000部

Culture Club 海からのメッセージ
 館蔵品紹介 木簡
 企画展 戦争から豊かな未来へ
 情報ボックス 魚の骨を調べる
 レファレンスQ&A レプリカの作り方

●No. 21 (1995年12月10日発行) B5判、8ページカラー、6,000部

Culture Club わたしは怪獣？
 野外博物館 県南の植物観察
 企画展 銅鐸の美
 情報ボックス 民具を見る
 レファレンスQ&A ダンゴムシはなぜまるくなるの？

●No. 22 (1996年3月20日発行) B5判、8ページカラー、6,000部

Culture Club 田芋を知りませんか？
 館蔵品紹介 カラスアゲハの性モザイク個体
 企画展 銅鐸の美
 速報！ 最近出土した徳島大空襲戦災遺物について
 レファレンスQ&A 吉野川には何種類くらいの魚がいますか？

(2) その他

●博物館催し物案内

1年間の普及行事予定をポスター(B2判)およびB4判4つ折のリーフレットとして印刷している。博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間行事案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したB4のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した小冊子。年度初めに県内各学校に送付している。

6. 博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。

●会員数(平成7年度末)

個人会員(年会費2,000円) 83人
 家族会員(年会費3,000円) 106組・449人

●役員(平成7年度)

会長: 寺戸恒夫
 副会長: 亀井節夫(博物館長)・近藤康男
 幹事: 和田賢次・田淵武樹・石原 侑
 吉村博子・真貝宣光
 監査: 柏野寿一・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布
 博物館発行の企画展図録、展示解説第1集・第2集(博物館へいこう)、博物館見学ノート等の増刷・頒布を行った。

②広報活動
 7年度会員に対し、博物館ニュース、企画展ちらし、月間行事案内、年間催し物案内、友の会だより準備号(No. 1, 2, 3)を送付した。

③企画展説明会
 企画展「よみがえる古代の輝き」、「貝の世界」、「戦争から豊かな未来へ」の開催にともない、それぞれの期間中に会員を対象として説明会を行った。

④友の会グッズの作成・販売
 8種類の絵はがき3,000セットを作成し、販売した。

⑤野外活動等
 会員を対象とした行事を4回実施した。

○園瀬川魚取り大会
 日時: 7月2日(日) 13時~16時30分
 場所: 文化の森総合公園付近の園瀬川
 参加者: 69名

○丈六寺見学
 日時: 11月4日(土) 14時~16時
 場所: 徳島市丈六町
 参加者: 27名

○おし葉を使ったカルタづくり
 日時: 12月16日(土) 14時~16時30分
 場所: 博物館実習室
 参加者: 14名

○美馬ウオーク
 日時: 3月10日(日) 13時~15時20分
 場所: 美馬郡美馬町
 参加者: 6名

⑥博物館開館5周年記念行事の共催
 博物館の開館5周年を記念して、博物館と共催で「博物館写生大会」、「写生大会作品展」および「博物館クイズラリー」を実施した。

7. 学校教育との連携

徳島県教育委員会および徳島市教育委員会からの依

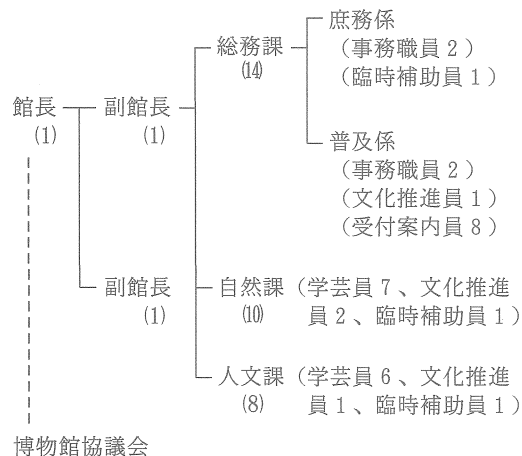
頼により、次のような教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。

- 平成7年度徳島市小学校理科部会夏季研修会
8月9日(水)
講座：「常設展の利用方法、学校教育への生かし方」
(徳野壽治)
実習：「草や木の名前の調べ方—植物の検索法—」
(小川 誠)
- 平成7年度初任者研修講座(徳島市教育委員会)
8月9日(水)
テーマ：「常設展示研修と教育普及事業についての説明」(徳野壽治)
- 平成7年度夏季生活科研修講座(徳島県教育委員会)
8月29日(火)
テーマ：「ペットボトルによるウケづくりと魚類の採集」(佐藤陽一)
- 平成7年度観察実験指導力向上講座(小学校・西部地区)(文部省・徳島県教育委員会)
11月8日(水)
講演：「地域社会と理科教育」(亀井節夫)
実習：県立博物館の施設を利用した理科の指導「化石レプリカの製作」(両角芳郎・魚島純一)

V 管理運営

1. 組織・職員

(1) 組織図 (平成8年4月1日現在)



(2) 職員名簿 (平成8年4月1日現在)

館長 亀井 節夫
副館長 日下 武久
" 天羽 利夫

<総務課>

総務課長 (庶務係長兼務) 田村 進
主査 山口都志江
普及係長 福島 秀樹
主事 木津 正憲
文化推進員 伊澤美千子
臨時補助員 篠原 未幸
受付案内員 吉原 真琴
" 藤井香代子
" 砂山 亜紀
" 川中 由佳
" 富士谷美香
" 美鳥 恵子

受付案内員 谷脇 充代
" 小谷 紀子

<自然課>

自然課長 両角 芳郎 (地学)
主任学芸員 大原 賢二 (動物)
" 佐藤 陽一 (")
学芸員 小川 誠 (植物)
" 田辺 力 (動物)
" 鎌田 磨人 (植物)
" 中尾 賢一 (地学)
文化推進員 赤田 瑞江
" 岩佐 春香
臨時補助員 谷口 宏子

<人文課>

人文課長 山川 浩實 (歴史)
主任学芸員 高島 芳弘 (考古)
学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)
" 魚島 純一 (考古・保存科学)
" 長谷川賢二 (歴史)
" 庄武 憲子 (民俗)
文化推進員 北條ゆうこ
臨時補助員 寺田佳余子

(3) 人事異動 (平成8年4月1日付、カッコ内は前職)

転出：藤本憲和 (副館長)、近代美術館副館長へ
" : 川人久子 (主査)、阿南養護学校主査へ
" : 徳野壽治 (普及係長)、鷺敷小学校教頭へ
転入：日下武久・副館長 (住宅課主幹)
" : 山口都志江・主査 (県立図書館主査)
" : 木津正憲・主事 (加茂名中学校教諭)
昇格：福島秀樹・普及係長 (事務主任)

(4) 平成7年度非常勤・臨時職員

●館長 (非常勤特別職)

亀井 節夫 (平成4.4.1~)

●文化推進員 (非常勤特別職)

中本 貞代 (平成5.4.1~8.3.31)
原下 朋巳 (平成7.4.1~8.3.31)
赤田 瑞江 (平成7.4.1~)

●臨時補助員

川中 恵 (平成7.4.1~8.3.31)
森 薫 (平成7.4.1~8.3.31)
岡本 恵 (平成7.4.1~8.3.31)
高岡 宏美 (平成7.4.1~8.3.31)

●受付案内員 (非常勤特別職)

炭谷 登子 (平成6.4.1~8.1.31)
吉原 真琴 (平成6.4.1~)

●平成7年度博物館費（2月現計予算額）

（単位：千円）

科目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報酬	29,674	29,674				
賃金	8,904	8,904				
報償費	1,740		725	435	440	140
旅費	12,474	3,372	3,580	4,473	904	145
需用費	33,470	4,116	15,896	4,919	6,287	2,252
役務費	21,856	2,546	14,042	673	3,700	895
委託料	10,582		9,206		1,376	
借損	1,487	739	150	208	150	240
備品費	51,319	3,756	495	369	*46,699	
負担金	130	65		65		
計	171,636	53,172	44,094	11,142	59,556	3,672

註）*のうちには、資料購入費39,999千円を含む。

- 藤井香代子（平成6.4.1～）
- 町田 穂子（平成6.8.1～7.9.30）
- 門田佐知子（平成6.12.6～7.9.30）
- 川越 千尋（平成7.4.1～8.1.21）
- 椎野 順子（平成7.4.1～7.9.10）
- 砂山 亜紀（平成7.4.1～）
- 川中 由佳（平成7.10.1～）
- 富士谷美香（平成7.10.1～）
- 美鳥 恵子（平成7.10.1～）

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成8年3月31日現在）

区分	氏名	役職等
学校教育	島 一夫	県小学校理科教育研究会会長 千松小学校校長
	森 朗	県中学校社会科教育研究会会長 海南中学校校長
	浜 高公	県高等学校社会科学会会長 徳島商業高校校長
社会教育	福原 健生	徳島市立徳島城博物館長
	富士貴志夫 （会長）	徳島県生涯学習推進会議委員 鳴門教育大学教授
	加茂 重良	徳島市立動物園長
学識経験者	岡田 一郎	徳島県文化財保護審議会委員 海南町教育委員会教育長
	寺戸 恒夫 （副会長）	徳島文理大学教授
	野田 良子	徳島県文化財保護審議会委員 四国大学教授
	石井 愷義	徳島大学総合科学部助教授

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を上表に示す。

3. 博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

7年度は協議会を1回開催した。

●7年度博物館協議会

日時：平成7年6月23日（金）10：30～12：00

会場：博物館講座室

議事：

- ・平成6年度決算及び事業報告
- ・平成7年度予算及び事業概要
- ・その他

4. 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在84館（園）が加盟している。四国地区の会長

(支部長)を担当する館が2年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっており、平成6、7年度の2年間は香川県文化会館が幹事をつとめることになっている。

平成7年度の役員会及び総会は次のとおり高松で開催された。

日時：平成7年5月9日(火)～10日(水)

会場：ラポール・イン・タカマツ

議事：

- ・平成6年度事業報告及び決算報告
- ・新規加盟館(園)の紹介
- ・平成7年度事業計画及び収支予算
- ・平成7年度四国地区博物館要覧の作成

5. 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、徳島県博物館協議会が平成8年2月27日に設立された。加盟館は31館で、当館に事務局が置かれる。

●設立までの経緯

- ・平成7年3月15日、第1回設立発起人会開催
亀井館長が呼びかけ、徳島県立近代美術館長、徳島市立徳島城博物館長、徳島市立動物園長、鳴門市ドイツ館、日和佐うみがめ博物館長、恰美術館長の7名が参集。協議の結果、設立に向けて準備を開始することで一致。事務局を当館が受け持つことになる。
- ・7月1日、県内各施設へ設立趣意書及びアンケートを送付
- ・10月18日、第2回設立発起人会開催
会則案、アンケート集計結果を検討。設立総会を1～2月に開催し、活動を4月1日から開始することで一致。
- ・11月10日、県内38施設へ会則案と加入案内を送付
- ・平成8年2月7日、設立総会開催案内状を31施設に送付
- ・2月27日、設立総会開催

●設立総会 2月27日(火) 13:00～15:00

会場：徳島県立博物館講座室

議事

- ・設立経過報告
- ・会則の決定
- ・8年度事業計画の検討
- ・役員選出

●役員

会長 徳島県立博物館長 亀井節夫

副会長	恰美術館理事長	恰 文雄
副会長	徳島市立動物園長	加茂重良
理事	相生森林美術館長	仁木 正
理事	徳島市立徳島城博物館長	福原健生
理事	徳島県立近代美術館長	三木多聞
監事	日和佐うみがめ博物館長	谷村正文
監事	鳴門市ドイツ館長	森本繁一

●平成8年度事業計画

- ・各館の組織・職員と展示概要並びに主な収蔵資料のリストの作成
- ・徳島県博物館マップの作成準備(マップ作成は9年度)
- ・実務担当者研修

6. 開館5周年記念事業

平成7年度は文化の森開園5周年目に当たり、文化の森の5館が「戦後50年をみつめて」という統一テーマのもとに、記念事業(展示、演奏会、映画会)を行った。当館は企画展「戦争から豊かな未来へ」を実施した。

その他、“県民に親しまれる博物館”という基本理念に沿って次の独自の記念行事も行った。講演会以外の記念行事は博物館友の会との共催で実施した(詳しい内容は、普及事業の項参照)。

- ・博物館写生大会 7月28日(金)～30日(日)
- ・写生大会作品展 8月30日(金)～9月3日(日)
- ・博物館クイズラリー 11月3日(金)
- ・開館5周年記念講演会 3月17日(日)

7. 各種委員・非常勤講師等の受諾

平成7年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

亀井節夫(館長)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 日本博物館協会評議員 | (平成7年6月～) |
| 徳島県博物館協議会会長 | (平成8年2月～) |
| 熊本県立博物館基本構想検討委員会委員 | (平成6.8.4～8.3.31) |
| 滋賀県甲西町博物館建設審議会会長 | (平成6.10.1～8.3.31) |
| 滋賀県多賀町文化施設基本計画策定委員会委員長 | (平成7.10.1～8.3.31) |
| 滋賀県水口町こども自然館建設相談役 | (平成7年11月～8.3.31) |
| 三重県センター博物館(仮称)資料評価委員 | (平成6.8.19～) |

- 三重県センター博物館（仮称）建設相談員
（平成7.7.4～）
- 三重県大山田村資料館建設委員会委員
（平成7年6月～8.3.31）
- 長野県野尻湖発掘調査団顧問
長野県北御牧村ステゴドン発掘調査団顧問
天羽利夫
徳島大学総合科学部非常勤講師
（平成7.4.1～8.3.31）
日本放送協会四国地方放送番組審議会委員
（平成5.11.1～）
- 山川浩實
松茂町歴史民俗資料館協議会委員
（平成7.8.31～8.3.31）
- 高島芳弘
四国大学非常勤講師（平成7.4.1～8.3.31）
- 佐藤陽一
徳島県土木部河川課河川懇談会「未来への碧き流れ
－新町川を語る会」委員（平成7～8年度）
- 鎌田磨人
千葉大学非常勤講師（平成7.10.1～8.3.31）
- 長谷川賢二
徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員
（平成7.4.1～8.3.31）
徳島県同和地区民俗文化史調査委員
（平成7.4.1～8.3.31）
- ## 7. 視察等博物館関係来訪者
- 6.9 山口県立山口博物館館長宇野博臣氏ほか1名
6.15 丸亀市文化財保護審議会委員・丸亀市教育委員会文化課職員46名
6.16 県政バス公聴事業参加者一行45名
7.7 滋賀県教育委員会琵琶湖博物館開設準備室学芸技師橋本道範氏
7.28 都道府県教育長協議会一行35名
8.4 京都橘女子大学千地万造教授、学生20名
8.12 仙台市徳島訪問団一行7名
9.5 鶴見大学大三輪龍彦教授ほか35名
9.21 県政バス公聴事業参加者一行45名
10.12 三重県美杉村教頭会一行7名
10.20 県政バス公聴事業参加者一行45名
10.20 滋賀県立安土城考古博物館学芸員松下 浩氏
10.24 大阪市立自然史博物館学芸員金沢 至氏ほか4名
11.2 大阪府文化財調査研究センター南部調査事務所技師服部美都里氏
- 11.4 徳島県立埋蔵文化財総合センター開館記念シンポジウム参加者一行45名
11.9 大分県決算特別委員会一行16名
11.10 香川県満濃町自治会役員一行20名
11.16 埼玉県埋蔵文化財調査事業団主任調査員山川守男氏ほか3名
11.16 文部省体育局長小林敬治氏、体育局学校健康教育課課長補佐齊藤賢治氏
11.17 文部省体育局体育館石川哲也氏、学校健康教育課調査官戸田芳雄氏、三木とみ子氏
11.30 千葉県立安房博物館館長米田耕司氏、主任技師安齋信人氏
12.6 中国上海人民政府国際友好城市交流事業発展基金秘書長会洪 雄峰氏ほか6名
12.21 大阪人権博物館学芸員吉村智博氏、学芸員栗山靖弘氏
1.31 今治市女性児童課職員一行11名
2.17 四国地区歴史系学芸員・アーキビスト交流会参加者28名
2.20 文部省生涯学習局社会教育課庶務・助成係長下村善量氏、企画調整係長伊藤康志氏
2.23 秋田県立博物館次長須藤泰全氏、主査遠藤昭二郎氏
2.23 三重県教育委員会事務局文化芸術課博物館建設準備室主査瀬古正博氏、文化調整係主事飛田哲也氏
3.6 三重県立博物館次長兼庶務課長吉田悠一氏
3.9 中村市文化財愛護友の会一行36名
3.18 彦根城博物館次長小菅一夫氏、史料室学芸員母利美和・渡辺恒一氏
3.21 日本科学技術振興財団山口孝和氏、三菱総合研究所坂本大介氏
3.23 宇和島市立伊達博物館建設委員ほか11名
- ## 8. 観覧者
- 平成7年度常設展及び企画展観覧者数、年度別累計は次ページの表のとおり。

●平成7年度常設展観覧者数

月	開館 日数	有 料 観 覧 者									有 料 観覧者 計
		個 人			団 体 (割引20%)			減 免 (割引50%)			
		一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	
4	25	1,674	93	801	75	189	50	192	0	0	3,074
5	26	2,488	158	779	193	0	0	447	0	0	4,065
6	26	2,135	101	592	66	31	0	301	0	0	3,226
7	26	2,283	149	785	18	0	31	232	3	0	3,498
8	27	3,093	272	1,989	131	0	71	232	0	0	5,791
9	24	1,277	89	391	47	0	0	214	0	0	2,018
10	25	1,469	67	401	115	0	0	335	0	0	2,387
11	25	1,352	53	302	113	0	14	495	0	0	2,329
12	22	669	61	217	0	0	0	66	0	0	1,013
1	23	1,091	52	374	0	0	0	89	0	0	1,606
2	25	1,073	69	328	31	0	20	110	0	0	1,631
3	26	1,346	189	597	78	0	31	169	0	0	2,410
計	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,882	3	0	33,048

●常設展観覧者数累計 (平2～7年度)

年 度	開館 日数	有 料 観 覧 者									有 料 観覧者 計
		個 人			団 体 (割引20%)			減 免 (割引50%)			
		一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	
平2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	10,359	57	48	88,722
平3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	10,028	19	53	99,282
平4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,928	48	13	57,861
平5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,545	2	3	48,943
平6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,549	5	18	35,369
平7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,882	3	0	33,048
累計	1,617	207,592	17,763	75,634	22,150	1,171	4,355	34,291	134	135	363,225

(単位：人)

無 料 観 覧 者											観覧者 総 数		
学 校 教 育										その他		無 料 観覧者 計	
幼・保育 園	小学校 人 数	小学校 校 人 数	中学校 人 数	中学校 校 人 数	高 校 人 数	高 校 校 人 数	計 人 数	計 校 人 数	第2・4土 無 料入館				
2	81	10	639	5	697	0	0	17	1,417	217	23	1,657	4,731
5	297	32	3,812	7	1,681	2	140	46	5,930	205	333	6,648	10,713
										5月5日 180			
1	65	4	201	1	123	1	95	7	484	346	694	1,524	4,750
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	150	834	984	4,482
0	0	2	41	1	51	0	0	3	92	0	1,136	1,228	7,019
0	0	1	157	0	0	0	0	1	157	104	557	818	2,836
5	233	34	2,591	4	653	0	0	43	3,477	179	562	4,218	6,605
3	152	13	1,113	2	106	0	0	18	1,371	149	1,528	3,048	5,377
0	0	2	78	0	0	0	0	2	78	77	331	486	1,499
3	250	0	0	0	0	0	0	3	250	140	452	842	2,448
2	51	1	9	0	0	0	0	3	60	167	492	719	2,350
6	413	0	0	0	0	1	18	7	431	171	551	1,153	3,563
27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373

(単位：人)

無 料 観 覧 者											観覧者 総 数		
学 校 教 育										その他		無 料 観覧者 計	
幼・保育 園	小学校 人 数	小学校 校 人 数	中学校 人 数	中学校 校 人 数	高 校 人 数	高 校 校 人 数	計 人 数	計 校 人 数	第2・4土 無 料入館				
		55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
		202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
		114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,083	7,493	23,325	56,373
70	4,382	678	70,648	137	20,805	66	9,535	951	105,370	6,079	16,853	128,302	491,527

●平成7年度企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開館日数	有料観覧者									無料観覧者	観覧者総数	
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
よみがえる古代の輝き	4.21 ～5.21	26	2,595	279	601	6	10	561	464	0	0	4,516	468	4,984
貝の世界	7.22 ～9.3	38	5,837	490	3,773	77	0	183	453	0	3	10,816	2,127	12,943
戦争から豊かな未来へ	10.17 ～11.19	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,618	14,618
計		94	8,432	769	4,374	83	10	744	917	0	3	15,332	17,213	32,545

●企画展観覧者数累計(平成3～7年度)

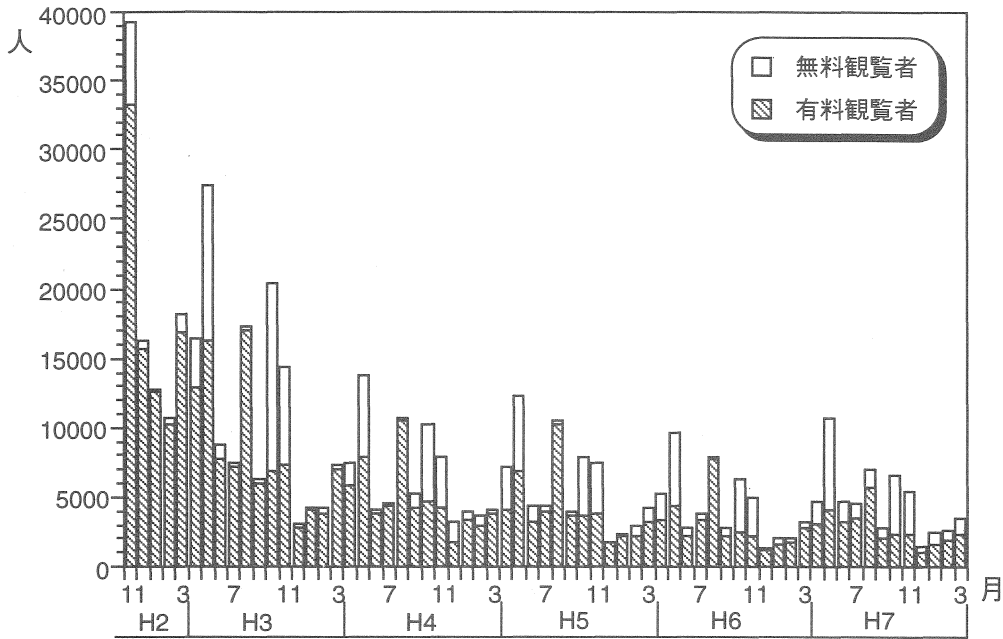
(単位：人)

年度	開館日数	有料観覧者									無料観覧者	観覧者総数	
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	917	0	3	15,332	17,213	32,545
累計	516	52,885	4,472	20,561	1,460	122	2,225	7,076	22	16	88,839	29,968	118,807

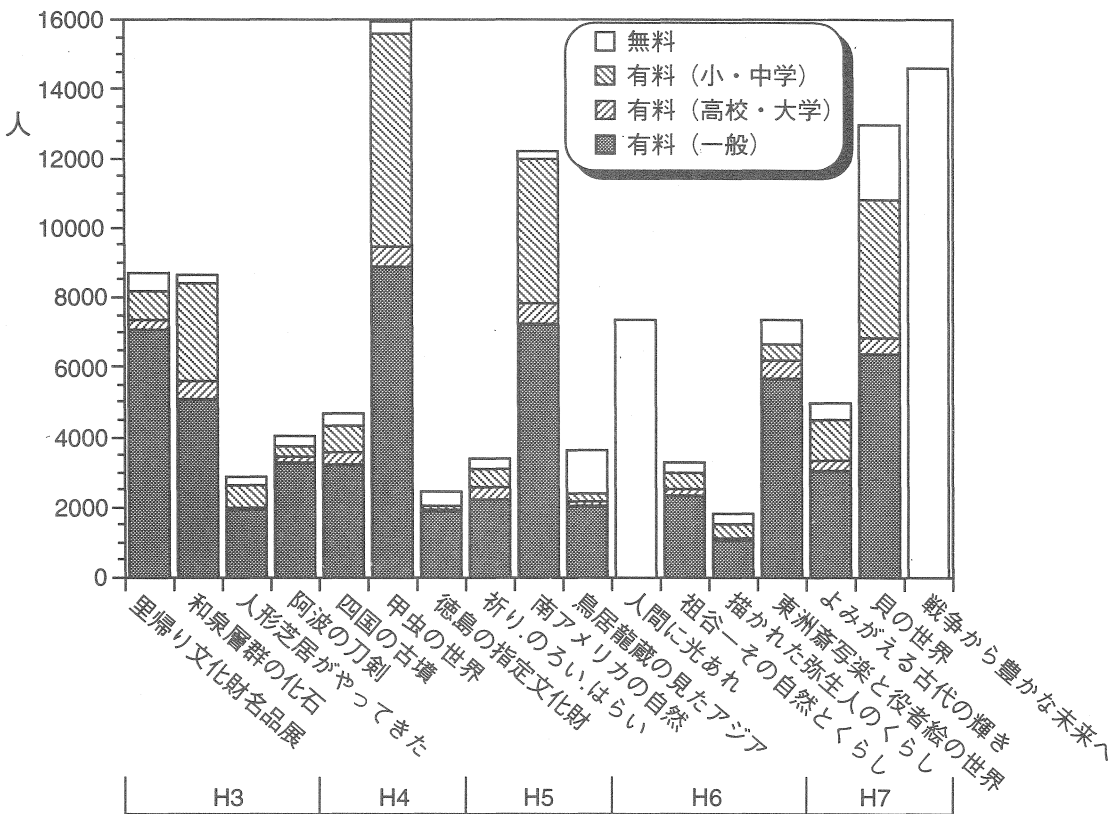
●特別陳列観覧者数累計(平成4～7年度)

展示会名	開催期間	開館日数	観覧者総数
第1回館藏品展	H5.2.16 ～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	H6.2.1 ～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	H7.1.13 ～2.5	21	3,165
第2回収藏品展	H8.2.16 ～3.17	27	5,358
累計		100	19,325

●常設展の月別観覧者数（平成2～7年度）



●企画展観覧者数（平成3～7年度）



徳島県立博物館年報 第5号(平成7年度)

平成8年(1996)6月30日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (0886) 68-3636 FAX (0886) 68-7197

印 刷：(株)教育出版センター

徳島県立博物館年報

第5号 (平成7年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No.5 (for the fiscal year of 1995)

